One purpose

同志社大学通信

FOR BETTER COMMUNICATION

140

2004
October

DOSHISHA UNIVERSITY

特　集●　「第1期生」

同志社人訪問●　有職御人形司　十二世
伊東久重さんに聞く

One purpose

CONTENTS

2004 OCTOBER No.140

COVER STORY
表紙の情景
[弓道場]

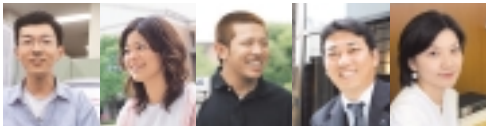
弓を引く。身体の重心をゆっくり下げながら、心を落ち着かせていく。道場の壁に掛かる額にある「明鏡止水」の言葉のように静かな心になるためだ。そして風船が弾けるような感覚で矢を放す。タンッ、タンッ。袴姿の部員たちが放つ矢が、30mほど先の的に次々と当たる。

今年、創部95周年を迎える弓道部。道場には同部の輝かしい歴史を誇る数多くのトロフィーが並ぶ。しかしここ数年、新たに加わるトロフィーの数がめっきり減った。5年前には、関西学生弓道リーグの1部から2部に降格。部員数が減った時期もあった。

低迷する状況を打破しようと努力を重ねてきた。その成果が今年、ようやく実りつつある。1月に開かれた三十三間堂大的大会の成人男子の部で優勝。5月に開かれた関西学生弓道選手権大会の女子団体の部では、第3位。また、8月に開かれたインカレでは、女子個人で準優勝するなど成績は上り調子だ。

道場には、毎夜のように11時まで明かりが灯る。この勢いを持続すれば、念願の関西学生弓道1部リーグ復帰もそう遠くないだろう。

大学の活動



特集
「第1期生」 2

同志社の研究は今
エネルギー変換研究センター 「エネルギー変換のフロンティアを行く」 9

2003年度大学決算について 11

LECTURE
人文科学研究所第53回公開講演会―幕末から明治へ－時代を読み解く―
『新選組と武州多摩の人びと―故郷に送られた近藤勇書簡を読む―』 16

CAMPUS NEWS
対話による問題解決をめざす世界学生会議／明徳館1Fラウンジがアートイベント会場に／「新島杯」英語弁論大会が8年ぶりに開催／太田雄貴さん（体育会フェンシング部）がアテネオリンピックに出場／東儀秀樹さんが寒梅館でコンサート／第29回外国文化週間／今井紀明さんと語るジャーナリズムの未来／2004年度「特色ある大学教育支援プログラム（GP）」に採択された新たなプログラム／「タウンミーティング イン 京都」開催／全南大学との学術交流協定記念式・記念講演会／JR同志社前駅改修工事始まる／同志社小学校（仮称）設置記者会見／他 17

在学生・教員の活躍

OP COMMENTARY
太田 進一 総合政策科学研究科・商学部教授 人生観、価値観、職業観の確立を 8

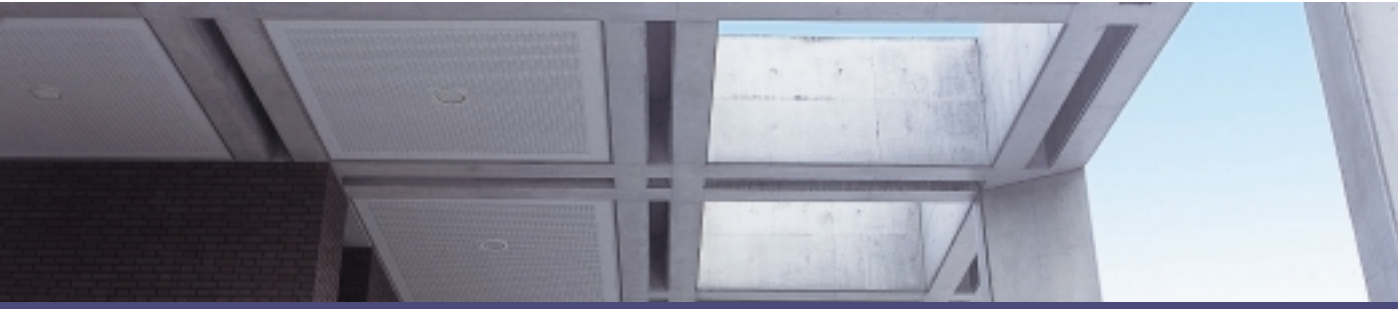
MY PURPOSE
関西学生野球リーグ初の完全試合達成!～右ひじの故障を乗り越え、マウンドへ～
・染田 賢作さん（経済学部経済学科4年次生） 27

卒業生の活躍

INTERVIEW ～同志社人訪問～
有職御人形司 十二世 伊東 久重さんに聞く 13

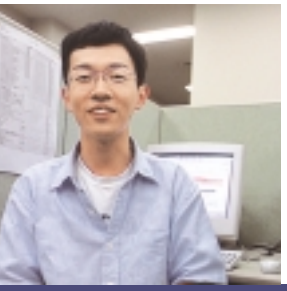
MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～
・岩佐 克俊さん（1991年文学部社会学科新聞学専攻卒業）
・前田 長子さん（1990年文学部文化学科文化史学専攻卒業） 23

ANNOUNCEMENT 25



特集「第1期生」

**2004年4月。同志社大学に誕生した学部・学科・研究科では、多くの「第1期生」が初めての授業に臨んだ。
新しい学部・学科・研究科に期待することは何か。
学生生活をどう過ごしているのか。今後の目標とは…。
各学部・学科・研究科の「第1期生」となる5人が語ってくれた。**



TOSHIRO YOSHIDA

工学部環境システム学科・吉田 敏朗さん

ERI FURUKAWA

工学部情報システムデザイン学科・古川 枝里さん

YUSUKE KITAMI

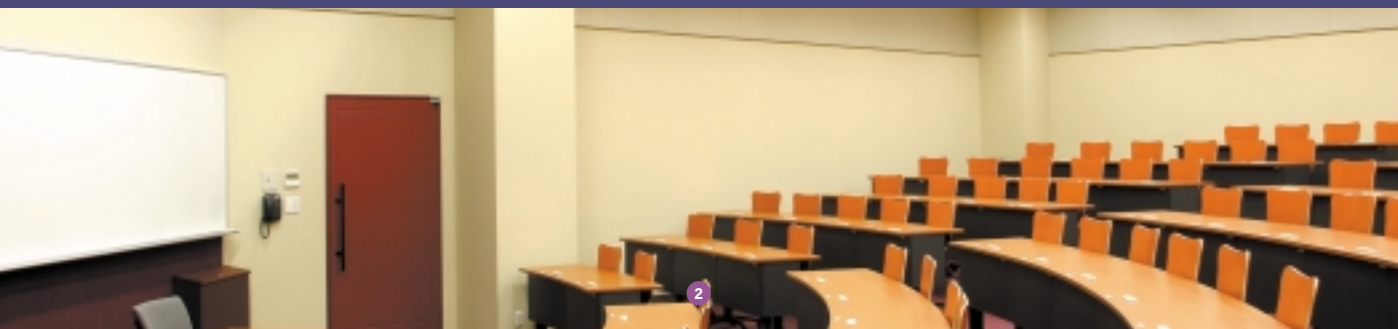
政策学部政策学科・北見 裕介さん

MASARU KIMURA

大学院ビジネス研究科（ビジネススクール）・木村 優さん

YUKO YAMAMOTO

大学院司法研究科（法科大学院）・山本 夕子さん



政策学部政策学科

北見 裕介さん

「学生同士、また先生と学生のコミュニケーションが緊密です」

文学、社会学、法学、経済学。僕は、大学で何を学ぶべきかあれこれ迷いました。そして、最終的にそのどれもが学べることを期待して政策学部を選びました。入学後のオリエンテーションで教授陣の紹介がありましたが、専門分野が実に多種多様で、僕の選択に間違いがなかったことを確信しました。

政策学部は他学部に比べて、少人数での授業が多いようです。だから、先生との距離が近く、話しやすい雰囲気があり、たいていは授業中に自由に挙手して質問できます。僕たち学生と先生との間で双方向コミュニケーションを持ちやすい環境は、政策学部ならではなのではないでしょうか。

政策学部には、特長的な科目がいくつかあります。例えば阿部茂行教授の「Communication Method in English」では、旅行業に関する資料を読み、考察したことを英語で発表します。高校までの英語力では、自分の意見を表現することはとても難しいのですが、まずは日本語でしっかりとした意見をまとめる作業から始めていこうと思っています。また、Ofer FELDMAN教授の「First Year Experiment」では、プレゼンテーションのための基礎を学びます。友人にインタビューしたり、大学施設の設備を取材したりして、その結果をプレゼンテーションします。グループワークとして取り組むことが多いので、僕たちは授業時間外によく集まって、プレゼンテーションの効果的な方法について話し合います。寒梅館のミーティングルームを使う場合が多いのですが、冗談を言い合っているうちに良い方法が見つかることもあります。高校時代に生徒会長を務めていた僕は、人前で話をするのは得意なので、進んでみんなの輪に入って話しかけるようにしています。電子メールの普及で、若者のコミュニケーション不足が指摘されることがありますが、政策学部の第1期生に関しては、その心配は無用のようです。グループワークの他には、新聞記者や政治家秘書などを授業に招き、お話を伺うこともあります。いろいろな刺激を受けることができ、社会に対する視野がどんどん広がるのを感じます。

政策学部は、自らの考え方に基づいて将来像を決定する能力が身につく学部だと感じています。つまり、自分のなりたい自分になれる、そういう学びができる場なんだと思っています。そして、多くの分野にわたって勉強することができる政策学部の環境を活用して、これからも僕自身の可能性を探っていきたいと考えています。

政策学部政策学科

現代社会の諸問題を解決するために必要な知識・情報と活動の体系を「政策」と考え、問題発見から解決に至るプロセスを研究対象にする。1・2年次は「政策」に関する知識、理論、手法の基礎を体系的に学ぶ。3年次以降は、各自が希望する学習テーマに合わせた3つのクラスター（公共部門、国際部門、マネジメント部門）で、実践力、応用力を養う。

工学部情報システムデザイン学科

古川 枝里さん

「興味が知識になっていく。その楽しさを実感しています」

「私の好奇心を満たしてくれそう」というのが、情報システムデザイン学科を選んだ大きな理由です。我が家では家族でパソコンを使っていて、コンピュータについてもっと知りたいという思いがありました。また、テレビで特集していた認知科学、知識工学の研究にも興味がありました。時代の先端分野へのあこがれもあったと思います。きっかけは単純なものですが、学科の履修要項を読んでみたところ、私の好奇心をくすぐる科目が並んでいて、ますますうれしくなりました。

情報システムデザイン学科には、アドバイザークラスという制度があります。入学後すぐ、どの科目をどう履修すればよいかを担当教授に相談することができるのです。私は「コンピュータ基礎演習」担当の高橋和彦助教授に相談にのっていただきました。先生にロボット制御に興味があると伝えると、「動きと力学」など物理系の科目を登録するようにと助言をいただき、スムーズなスタートを切ることができました。

「情報システムデザイン工学入門」という科目では通信とネットワークに関する基礎を、「計算機工学」では演算装置の仕組みを学んでいます。最初は「興味がある」にすぎなかった授業が、専門的な内容へと進んでいくにつれて、私の知識欲を満たしてくれる存在へと変わっていきました。たとえば、プログラミングの問題が解けた時の達成感はたまりません。実際にコンピュータに触れながらの授業なので、その楽しさもいっそう大きくなります。また、ある科目で学んだ事柄が、別の科目で知識として生きる。このつながりに気づき、ますます授業を受けるのが楽しい毎日です。秋学期以降の登録では教養科目を増やし、興味の対象を広げていきたいと考えています。

授業でわからなかった箇所があると、先生に質問するだけでなく、学生同士で教え合うことがあります。みんな仲が良いのです。先生方との懇親会もありましたし、友人たちが学科内でイベントサークルを作って、バーベキューなどを企画してくれました。みんな第1期生だから「勉強も大学生活も頑張らなきゃ」という自覚を持っています。そんなまとまりの良さを感じています。

これからの4年間、好奇心を働かせ、コンピュータ分野のどの方向に進めば良いのかをしっかりと見極めながら、私らしく進んでいきたいです。

工学部情報システムデザイン学科

社会的ニーズに沿った情報システム開発ができるシステムエンジニアを育成する。製造業、金融、医療、交通などあらゆる産業分野に対応できるように、実際の現場でどのようなシステムが必要か、システム構築にはどのような知識が必要かという社会的ニーズからカリキュラムを構成している。人間と人間行動についても学び、人間とコンピュータのより良い関係を考える。

工学部環境システム学科

吉田 敏朗さん

「授業のスピードの速さは、将来に向けての訓練です」

大学受験では、環境に関する学科のある大学をいくつか受験しました。環境問題について問題解決していく知識がこれからの時代は不可欠になる、そんな直感があったからです。同志社大学の工学部環境システム学科に決めた理由は、キャンパスがきれいなこと。実は、本年度に新設された学科だということは知らず、後から聞いてびっくりしました。

大学生活最初の授業は、押目頼昌教授の「解析学I」。微分、積分の講義でした。高校時代の得意科目は数学だったので、講義内容がすんなりと頭に入ったときは、正直ホッとしました。また、環境システム学科の必修科目に「地球科学」という授業があります。地質学や地球環境学を学ぶのですが、教科書はすべて英語なのです。授業が始まり、受験勉強を終えてわずか数カ月で英語の力がずいぶん落ちたことに気づき慌てました。授業では、各自が予習をしてくることを前提に、先生がスライドを使って該当箇所を説明します。専門用語はあらかじめ教えてもらえますが、辞書と首っ引きで予習し、授業に備えなければついていけないほどのスピードなのです。これは、今後僕たちが国際学会や社会に出た時に英語を使って発表する際の訓練なのだと聞いて納得しました。第1期生の僕たちにかかる期待の大きさを、ひしひしと感じることができます。

第2外国語科目は中国語を選択しました。授業が始まる前までは、漢字だし簡単だろうとたかをくくっていました。ところがそれが大間違いでした。授業の第一声で、先生が「一番難しい語学を選びましたね」とおっしゃったように、綴り、発声法、文法など覚える事項が多くてたいへんです。でもゼロから言語を学ぶことの面白さを実感しています。

実は、シラバスの詳細をつい読み飛ばしてしまい、科目名だけを見て登録した科目もあります。登録相談にも行かず、独りで決めてしまったのです。想像と違う授業内容に驚いたことがあったので、次からは気をつけようと思います。

将来は、新しい資源エネルギーの開発に取り組んで、自然環境をとりもどす仕事に就ければと考えています。そのために、1年次の間に必修科目の化学、生物学、物理学の単位を頑張って修得して、2年次からの専門科目につなげていきたいです。

工学部環境システム学科

地球環境分野では、地球システム科学、環境保全・防災技術、新エネルギーシステムを研究。循環型社会の自然環境保全に関する深い知識を養う。生命環境分野では、生命環境保全、人間環境科学、運動機能・生理学を通して、生物と人間への理解を深める。また、自然環境と調和した住環境や科学的介護方法の提案などを通して、人間が幸せに生きるための環境作りも研究する。

司法研究科（法科大学院）

山本 夕子さん

「共に学ぶ仲間の存在が大きな支えになっています」

同志社大学文学部英文学科を卒業後、酒類メーカーに勤務しました。営業として仕事を続けるうちに、自分をもっとステップアップさせたいと考えるようになりました。大学入学前に法律への興味を抱いていたこともあり、退社後に司法試験の勉強を始めました。今思えば大きな勘違いですが、ある程度勉強すれば受かるだろうと思っていたのです。同志社大学に法科大学院が設置されることは知っていましたが、初めは経済面から受験は考えていませんでした。しかし、「ゴールへの最短距離を進みなさい」という家族の薦めもあり、受験を決めたのです。そして、入学時には貸与奨学金制度を利用し、その返済を新司法試験合格にむけて自分を追い込む材料として、法科大学院での勉強をスタートしました。

現在、私は法学未修者コースに在籍し、法学の基礎を学んでいます。私を含め、学生は皆勉強に対して主体的に取り組んでおり、クラス全体が「もっと理解したい」という熱気に包まれています。90分間という授業時間も、張りつめた緊張感の中であっという間に過ぎていきます。そこでは、これまで経験したことがないほどの集中力が必要とされると同時に、「私は今まさに学んでいるんだ」という新鮮な感覚を味わうことができるのです。授業以外に、それぞれテーマを決めて自主ゼミを開いている学生もいます。また、キャレルで勉強していても、わからないことがあれば、周囲には一緒に考えてくれる人がいます。司法試験受験生は独りで黙々と勉強するものだというイメージを持っていたので、この点に関しては、予想外でした。

今はまだ基礎固めの時期なので、新司法試験合格後、具体的にどのような法曹をめざすかはまだ決めていませんが、先生方は、私たちの将来像のヒントを提供してくださいます。授業の中では判例が重視されますが、判例から読み取れるのは、どういう事実をもってどういう主張ができるのか、どんな手段を講じれば困っている人々を救済できるのか、という具体的な事柄であり、心にぐっとくる判例に触れると、やる気へとつながります。そして、多くの判例に触れることで各自に問題意識が形成され、結果として自分がどの分野に強い法曹をめざすべきかが、見えてくるのではないかと思うのです。

司法試験は極めて難しい試験であり、目の前には大きな不安の海が広がっています。でも、法科大学院に入学したことで、まずは海を渡るためのボートを手に入れることができました。途中で後戻りすることなく、しっかりと漕ぎ出そうと思っています。

司法研究科（法科大学院）

「自治自立」の精神を持ち「良心を手腕に運用する」法曹、国際舞台で活躍することのできる法曹、高度に専門化した企業間の紛争や刑事司法に対応できる専門性を持った法曹の育成を目的とする。市民に身近な弁護士はもちろん、企業内弁護士、渉外弁護士、裁判官や検察官の法曹三者に留まらず、国内外の公務員や将来の法科大学院教員など、さまざまな分野で活躍する人材を育成するための多彩な科目がある。

ビジネス研究科（ビジネススクール）

木村 優さん

「経歴や業種の異なる人との議論で問題解決能力を養っています」

私は法学部法律学科を卒業し、宝酒造株式会社に入社しました。入社後は仕事に追われ、学ぶことから離れていましたが、会社がワインビジネスに参入した際、社員にワインアドバイザーの資格取得を奨励しました。この試験勉強の中で久しぶりに学ぶことの楽しさを思い出し、それからは毎年何かテーマを決めて勉強を継続してきました。ある年は貸借対照表や損益計算書の分析、ある年は社会保険労務士の資格をめざしました。そして、中小企業診断士試験には合格することができました。この経験で、勤務時間外のわずかな時間を活用する習慣が身につきました。

ビジネススクールへの入学を決意したのは、こうした学びを集大成したいという思いからです。昨今の企業を取り巻く環境は大きく変化し、グローバル化が進む中にあって、旧来のやり方が通用しなくなりつつあります。また以前から、中小企業診断士で取得した知識をもっと深く掘り下げたいという思いもありました。ですから私の場合は、MBAなどの資格だけが目標なのではなく、そのプロセスでさまざまなことを学びたいと考えたのです。

私は現在、「マーケティング」「会計学」「企業の社会的・国際的役割」などの基礎科目を選択していますが、今後は法律科目など、現在の総務人事部での仕事に直結する科目を履修する予定です。

多くの授業はテキストの講読、事例研究の発表、ディスカッション、レポートというサイクルで進みますが、このサイクルについていくのは容易ではありません。土日は授業と課題でつぶれますので、何より家族の理解が重要です。しかし、さまざまなキャリアやノウハウを持った人たちと充実した議論をすることは大きな楽しみであるとともに、自身の成長につながることを実感しています。また、社会人経験のない学生にとっては、ビジネスの現場で何が起きているかの具体的なイメージを掴むことができる点で貴重な体験になることでしょう。

私は会社員として17年間過ごしてきたので、物事に対する評価や判断の基準がどうしても会社を基準にしてしまいがちです。しかしそれは、知らず知らずに時代のトレンドや顧客のニーズといったものからずれてしまう怖れがあります。そこで、先生や他の学生と議論することで、自分の軸をニュートラルに戻したいという期待もしています。

ここで学んだ知識や問題解決能力は会社の仕事に還元し、私自身のスキルアップを図るつもりです。そして、私たち第1期生の勉強の成果は、同志社ビジネススクールの伝統として引き継がれるものだと思います。常に自分を高めたいと志す仲間と一緒に、今後も第一線のビジネスに役立つ勉強に励んでいこうと思います。

ビジネス研究科（ビジネススクール）
国内外のビジネスパーソンを対象としたMBAプログラム。経営、会計、ファイナンス、マーケティング、人的資源管理など、企業経営の専門知識と、それらを基礎とした総合経営判断能力を身につける。世界の大学を経験した研究者教員、各界の第一線で活躍する実務家教員など多彩な教授陣が、受講者とともに考え、議論していく少人数、双方向かつ参加型の授業を展開する。

ワンパーパス
コメンタリー

COMMENTARY

人生観、価値観、職業観の確立を

今の学生諸君は、大学3年次や大学院修士課程1年次の秋学期末試験の2月頃から就職活動を始めなければならず、大変だと思う。マスコミ志望の人に至っては学部3年次生や大学院1年次生の12月頃から受験を始めることになり、可哀そうだとさえ感じる。内々定が早い人は3月末日か4月初めには出る。今年は就職協定の復活とも言われた「倫理憲章」の制定が日経連参加の企業630社余りで昨年秋に交わされた事から、企業によっては4月以降に就職活動が開始された。私のゼミの学生や大学院生を見ていると、昨年度に比較して就職活動期間が逆に長引き、ゼミへの出席率もあまりよくなかった。しかし、7月現在でほとんどのゼミ学生や大学院生が内々定を勝ち取っているようである。20年ほど前には、4年次秋学期からようやく就職活動を開始していた状況からすると、何とかならないかと感じる。

ところで、学生によっては、人生観や価値観、職業観がはっきり確立していないために、就職活動がうまく行っていない、どう活動してよいのかわからない等、就職戦線から取り残される学生が毎年何人かいる。

人生においては、ただの「会社人間」でなく、きちっとした人生でのトータルとしての目標を保持していることが重要である。仕事だけでなく、家庭生活を大事にし、自分の趣味やスポーツ活動を継続し、住んでいる地域でのボランティア活動も重視する等、バランス感覚の取れた人生こそ、これからの若い世代の理想像である。特定の職種が選択されれば、その道のエキスパートになることが目標になるから、これまでの終身雇用制や年功序列型賃金は薄らいでいくことになる。

人生での目標や理想、人生像がまだできていない人はどうすればよいか。それは偉人などの伝記を読むことである。今からでも遅すぎることはない。密林で現地の人たちの治療活動に生涯をささげたシュバイツァー博士、事業の成功後に遺跡の発掘に余生を捧げたシュリーマン、研究者としてのキュリー夫人、ナイチンゲールでもよい。どの伝記を読めばよいかわからない人は『心を育てる初めての伝記101人』（講談社刊行）でもよいと思う。小説家や音楽家、演劇家が最終目標に設定された人は、それまでの就職先は仮の住処となる。それが例えフリーターであってもかまわない。

しかし、われわれの世代にも価値観が未だに確立していない人たちがいる。三菱自動車の欠陥車隠し、雪印集団食中毒事件、雪印食品の牛肉偽造事件、ハンナングループの牛肉偽装事件、いずれの事件も経営者の意思決定で、何が最優先の課題か、何が最も重要な価値かの基準作りができておらず、公正な正義感や倫理観が欠如していたことが暴露された。諸君たちがやがて意思決定できる場面に直面した時は、「一国の良心」を以って、新島襄の「良心の全身に充満したる丈夫（ますらお）の起り来たらんことを」を処世訓として対処していただきたい。

学生生活において何をやってきたかを堂々と就職面接の場で語れる内容とその充実こそが、諸君に課された緊急の課題である。

総合政策科学研究科・商学部教授

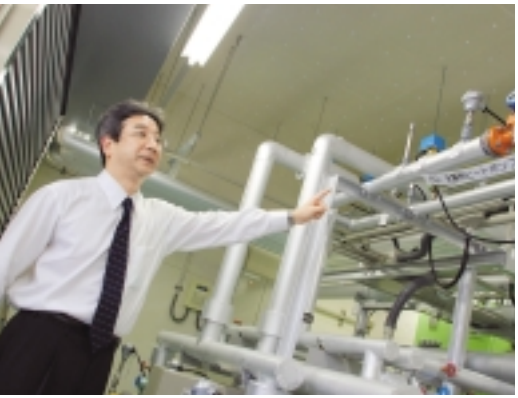
太田 進一

Shinichi Ohta

1942年、神戸市生れ。
同志社大学大学院商学研究科修士課程修了。大阪府立商工経済研究所主任研究員を経て、同志社大学商学部専任講師、助教授、現職。専門は中小企業論、ネットワーク経営論など。

「同志社の研究は今」

エネルギー変換のフロンティアを行く



大気熱を利用する「CO_2氷蓄熱ヒートポンプシステム」

文部科学省の平成15年度学術フロンティア事業に採択された共同研究プロジェクト「次世代ゼロエミッション・エネルギー変換システム」。同プロジェクトは現在、京田辺キャンパスに今春完成した「エネルギー変換研究センター」（光喜館）を拠点に、環境保全のための最適なエネルギー変換過程の究明を通して、ゼロエミッション型社会の実現に貢献することをめざしている。センター長の千田二郎工学部教授に話を伺った。

現代社会は、エネルギーに大きく依存しています。しかし、化石系燃料資源は有限であり、また、地球温暖化にともなう環境破壊は深刻さを増しています。これまで以上に資源の有効利用や環境への負荷の低減が求められているのです。世界的に見ても、自動車メーカーを中心に、エンジンシステムの高効率化、低公害化の技術開発が進み、ハイブリッドエンジン車や燃料電池車が開発されています。本センターでは、こうした自動車用だけでなく、産業用、家庭用のエネルギー変換機器、さらには社会基盤としてのエネルギー変換システムを学際的な見地から研究を行っています。

研究テーマは大きく分けて4つあります。

1つ目は「高効率エネルギー変換システム研究」です。この研究では、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンなどをエネルギー特性やパワー特性から分析、再評価し、既存技術のハイブリッド化で高効率化、超低公害化を図ったり、次世代の燃料電池の研究を行っています。

2つ目は「ゼロエミッション研究」です。ここでは排気成分のきめ細かい計測や生成過程の解析を行い、有害物質ゼロをめざします。ゼロエミッションに関していえば、電気自動車や燃料電池車は、走行時に有害な排気ガスを出しません。エネルギー効率もよく、環境に優しいシステムといえますが、忘れてはならないのが、電気や水素の製造過程ではやはりCO_2を排出している点です。総合エネルギー効率という点でも、ガソリンエンジンやディーゼルエンジンより劣る場合があります。つまり各エネルギーの原料調達から、製造、運用、廃棄に至

千田 二郎
【エネルギー変換研究センター長・工学部教授】

地下1階にある「ガスエンジン発電装置」

エネルギー変換のフロンティアを行く

るすべての過程で生じる環境負荷を分析して行うLCA（Life Cycle Assessment）の観点からすると、走行時に排気ガスがほとんど出ないから環境負荷が少ないということにはならないのです。

3つ目の研究テーマは「燃料サイクルとエネルギー貯蔵研究」です。いま、京都市の市バスやゴミ収集車には、家庭の廃食油を精製したバイオディーゼル車が導入されています。これなどは環境にやさしい燃料といえます。化石燃料は、太陽の恵みを受け、数億年という歳月をかけてエネルギー資源化したものですが、バイオ燃料はこれを化学的に短いサイクルで実現します。将来、資源循環型の社会を実現するために、今から少しずつでもこうしたバイオマスエネルギーを導入していく必要があるでしょう。

4つ目は「エネルギー変換機器の最適化LCA評価研究」です。このテーマにおいては、より大きな社会システムという観点から各エネルギー変換システムを捉え、その最適化を考えていきます。自動車に関していえば、ディーゼル車やガソリン車は、渋滞時に多くの有害物質を排出します。そこで渋滞のよく起こる市内では、ディーゼル車やガソリン車には乗らないシステムづくりが大切になってきます。例えば、通勤や通学には、電車等の公共交通機関を使って最寄の駅まで行き、そこから電気自動車を利用してもらうといった用途別に最適化する「パーク&ライド」などです。TDM（Transportation Demand Management＝交通需要マネジメント）やITS（Intelligent Transportation System＝高度情報交通システム）の積極的な活用も必要でしょう。ほかにも市内の物流にハイブリッド車を使用するなど、エネルギー変換機器の特性に合わせた棲み分けを社会基盤システムとして研究していきます。また、産業界で導入が進むコージェネレーションシステムについても、実証実験を行っています。大型火力発電所ならエネルギー効率は45％ほど。送電ロスを含めると39％が実際に使われているエネルギーです。本センターが導入しているコージェネレーションシステムはおよそ42％が有効利用できますから、エネルギー効率はいいわけです。問題は初期投資にどれだけかかり、どれくらいの期間で減価償却できるかですが、ランニングコストやエネルギー効率からいえば、コージェネレーションのように送電ロスの少ない地域分散型のエネルギーシステムが将来的には視野に入ってきます。

光喜館には、天然ガスを利用して電気と熱エネルギーを取り出す「ガスエンジンコージェネレーションとCO_2ヒートポンプのハイブリッドシステム」と太陽光発電を利用する「ソーラー超臨界CO_2ランキンシステム」などを導入しており、いわば建物自体が巨大な実験装置といえます。これらの装置で各種計測データを採取するとともに、実際に稼働させることで環境配慮型のエコ・キャンパスの実現にもつながるのではないかと期待しています。

現在、本センターでは、これまでの機械、電気、化学といった分野の枠を超えた学際的な研究を行っています。そして日本、アメリカ、イギリス、中国の4カ国の研究機関と連携してグローバルな研究を行っています。各機関と協力して大きな成果を上げるとともに、積極的に情報発信を行って、文部科学省から指定されたプロジェクトが完了する4年後も、エネルギー研究、環境保全を想定したエネルギーの最適な変換過程の研究拠点として社会に貢献していきたいものです。

屋上に設置されている「ソーラー超臨界CO_2ランキンシステム」

光喜館

学術フロンティア推進事業とは？

文部科学省が行う「私立大学学術研究高度化推進事業」のひとつ。優れた研究実績をあげ、将来の研究発展が期待される卓越した私立大学の大学院研究科、研究所を選定し、内外の研究機関との共同研究に必要な研究施設、研究装置・設備の整備に対して総合的な支援を行う。

2003年度 大学決算について

財務部 経理課

2003年度大学決算は、2004年5月13日開催の大学予算委員会及び大学評議会、5月29日開催の理事会で承認されました。

2003年度は、教育研究条件の整備充実を図るための事業として、外国語基礎能力到達度テストや学生授業評価の実施、学術情報システムやWeb科目登録システムの開発、研究センター設置に伴う研究費新設、マルチメディア教室や図書館の整備、情報システムのリプレース、e-Learning環境の整備などを重点的に実施しました。また、就職活動支援事業として東京オフィスの充実や就職支援システムの更新、国際交流推進事業として留学生支援チューター新設などを行いました。そのほか、学生寮の改修、障がい学生の支援事業、体育施設設備の整備、大学案内のリニューアル、新設学部・大学院の周知広報などにも取り組みました。

建設事業では、寒梅館をはじめ、渓水館（新町）、同志社ローム記念館・情報メディア館、交隣館、光喜館（以上京田辺）、看山ハウス（岩倉）、牧羊館（リトリートセンター）などの建設事業やクラーク記念館の保存修理事業を実施しました。

このように2003年度は大規模な事業を展開しましたが、第2号基本金や特定支出準備金などの財源を計画通り活用するとともに、補助金の新規開拓、受託研究や寄付教育研究プロジェクトなど外部資金導入の促進、光熱水費の節減などの対策を進めて、収支バランスの維持に努めました。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は243億円で、帰属収入に占める割合（学納金比率）は77%と大きな比重を占めています。

手数料は13億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は5億円で、オムロン株式会社からのITEC研究活動宛寄付金、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなどへの寄付金、機器備品や図書などの現物寄付金を受入れました。

補助金は37億円で、国庫補助金が主なものです。このうち経常費補助金については、一般補助が学生数及び補助対象職員数の減少や補助金配点の低下により減収となった一方、高度化推進特別補助で学術フロンティア経費の新規採択（工学部エネルギー変換研究センター）や教育学術情報ネットワークの申請経費増加（情報システムのリプレース）などで増収となりました。その他の国庫補助金では施設設備対象の補助金として研究装置、情報通信装置及び学術フロンティア施設などの採択を受けました。

資産運用収入は4億円で、基本金引当資産の運用収入及び預金などの受取利息・配当金、施設設備利用料収入などです。

事業収入は3億円で、企業からの受託研究費などの受託事業収入及び補助活動、付属事業収入が主なものです。

雑収入は6億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

繰出金は3億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

固定資産除却額は22億円で、旧 渓水館などの解体除却及び機器備品の償却期間完了に伴う除却額です。

前年度基本金組入額繰延額は6億円で、前年度から繰り延べられた大学会館及び第1従規館などの解体除却に係る固定資産減少額を、今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

借入金等収入は1億円で、学校債発行による借入額です。

第2号基本金取崩額は56億円で、寒梅館、情報メディア館、渓水館、光喜館などの建設資金及び研究装置の取得資金のための取崩額です。

特定支出準備金取崩額は7億円で、使途が特定された準備金の取崩額です。このうち5億円はローム株式会社から過年度に受入れた特別寄付金を準備金としていたもので、同志社ローム記念館建設事業に充当しました。

収入の部合計は４０７億円となり、寄付金、補助金などの増額により予算に対して7億円の増収となりました。

支出の部

人件費は145億円で、帰属収入に占める割合（人件費比率）は46%となりました。教員充実計画による増員や、退職給与引当金引当率の引上げに伴う繰入額の増加などにより、前年度に比べ2%上昇しました。

教育研究経費は103億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。研究費及び実験実習費などの予算繰越による執行残、光熱水費の節減、委託費の執行残があったものの、建設事業において予算未計上の経費が増加したことで、予算に対して1億円の増加となりました。

管理経費は13億円で、大学の維持管理や新学部・大学院の開設準備に要した経費です。

繰入金は6億円で、主に高等学校による情報棟建設のための法人内資金調達額です。

施設関係支出は80億円で、寒梅館、同志社ローム記念館・情報メディア館その他の建設事業やクラーク記念館の保存修理事業、両校地の情報基盤整備事業などによる支出です。

設備関係支出は27億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

翌年度基本金組入額繰延額は5億円で、固定資産取得額を上回る除却額があるため、基本金組入額を翌年度に繰り延べるものです。

借入金等返済支出は9億円で、償還計画に基づく返済に加えて、私学事業団借入金の一部を繰上償還したことによるものです。

第２号基本金組入額は、組入計画に基づき、教学施設整備資金12億円、研究装置設備等整備資金2億円、情報基盤整備資金1億円の合計15億円を組み入れました。

第３号基本金組入額は5億円で、組入計画に基づいて同志社大学奨学金基金3億円、同志社大学国際交流基金2億円を組み入れたほか、使途特定寄付金を奨学金基金に組み入れました。

第４号基本金組入額は、法人全体の組入計算に基づき必要額を組み入れました。

特定支出準備金繰入額は5億円で、使途特定寄付金及び研究費などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は４１５億円で、予算に対して2億円の増加となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度消費収支差額は７億円の支出超過となり、帰属収入の増加などにより、予算に対して5億円改善しました。しかしながら、累積消費収支差額としては１９７億円の支出超過額を翌年度以降に繰り越すことになります。

借 入 金

借入金残高は、前年度末に対して8億円減少し、当年度末では２９億円となりました。

自己資金の不足額

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

前年度末の不足額は227億円でしたが、当年度末は1億円減少して２２６億円となりました。

（本文中の金額については1億円未満を四捨五入しています）

■収支計算書　2003（平成15）年4月1日から2004（平成16）年3月31日まで（単位:千円）

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	24,347,060	24,335,838	11,222
手数料	1,212,600	1,263,983	△ 51,383
寄付金	509,370	533,711	△ 24,341
補助金	3,212,360	3,702,616	△ 490,256
資産運用収入	355,650	393,203	△ 37,553
資産売却差額	0	1,514	△ 1,514
事業収入	276,000	289,061	△ 13,061
雑収入	550,190	627,548	△ 77,358
繰出金	280,300	285,715	△ 5,415
分担金	120,170	120,170	0
帰属収入合計	(30,863,700)	(31,553,359)	(△ 689,659)
当期固定資産除却額	2,188,920	2,164,492	24,428
前年度基本金組入額繰延額	561,190	561,190	0
借入金等収入	100,000	76,900	23,100
当期末未払金	0	63,085	△ 63,085
第2号基本金取崩額	5,626,810	5,626,805	5
基本金過年度組入額、未組入額合計	(8,476,920)	(8,492,472)	(△ 15,552)
特定支出準備金取崩額	635,650	660,572	△ 24,922
収入の部合計	[39,976,270]	[40,706,403]	[△ 730,133]

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	14,393,350	14,530,260	△ 136,910
教育研究経費	10,163,750	10,268,461	△ 104,711
消耗品費他	7,431,320	7,533,342	△ 102,022
減価償却額	2,732,430	2,735,119	△ 2,689
管理経費	1,241,610	1,268,062	△ 26,452
消耗品費他	1,174,840	1,202,480	△ 27,640
減価償却額	66,770	65,582	1,188
借入金等利息	129,050	129,047	3
資産処分差額	5,860	19,863	△ 14,003
徴収不能引当金繰入額	61,180	45,185	15,995
徴収不能額	0	7,273	△ 7,273
繰入金	550,000	560,176	△ 10,176
予備費	100,000	—	100,000
消費支出合計	(26,644,800)	(26,828,327)	(△ 183,527)
施設関係支出	8,602,830	7,966,710	636,120
設備関係支出	3,052,020	2,681,902	370,118
当期固定資産受贈額	0	46,808	△ 46,808
翌年度基本金組入額繰延額	67,320	499,247	△ 431,927
借入金等返済支出	590,060	881,611	△ 291,551
前期末未払金	39,080	39,075	5
第2号基本金組入額	1,500,000	1,500,000	0
第3号基本金組入額	455,000	455,000	0
第4号基本金組入額	57,300	57,300	0
基本金要組入額、当年度組入額合計	(14,363,610)	(14,127,653)	(235,957)
特定支出準備金繰入額	251,570	498,897	△ 247,327
支出の部合計	[41,259,980]	[41,454,877]	[△ 194,897]

収支差額の部			
科目	予算	決算	差異
当年度消費収支差額	(△ 1,283,710)	(△ 748,474)	—
消費支出準備金繰入額	0	0	—
消費支出準備金取崩額	805,380	46,907	—
繰入取崩後当年度消費収支差額	[△ 478,330]	[△ 701,567]	—
前年度繰越消費収支差額	[△ 19,009,730]	[△ 19,009,724]	—
翌年度繰越消費収支差額	[△ 19,488,060]	[△ 19,711,291]	—

借入金			
科目	予算	決算	差異
前年度末借入金残高	[△ 3,671,380]	[△ 3,671,382]	—
当年度借入額	△ 100,000	△ 76,900	—
当年度返済額	590,060	881,611	—
当年度末借入金残高	[△ 3,181,320]	[△ 2,866,671]	—

用語解説

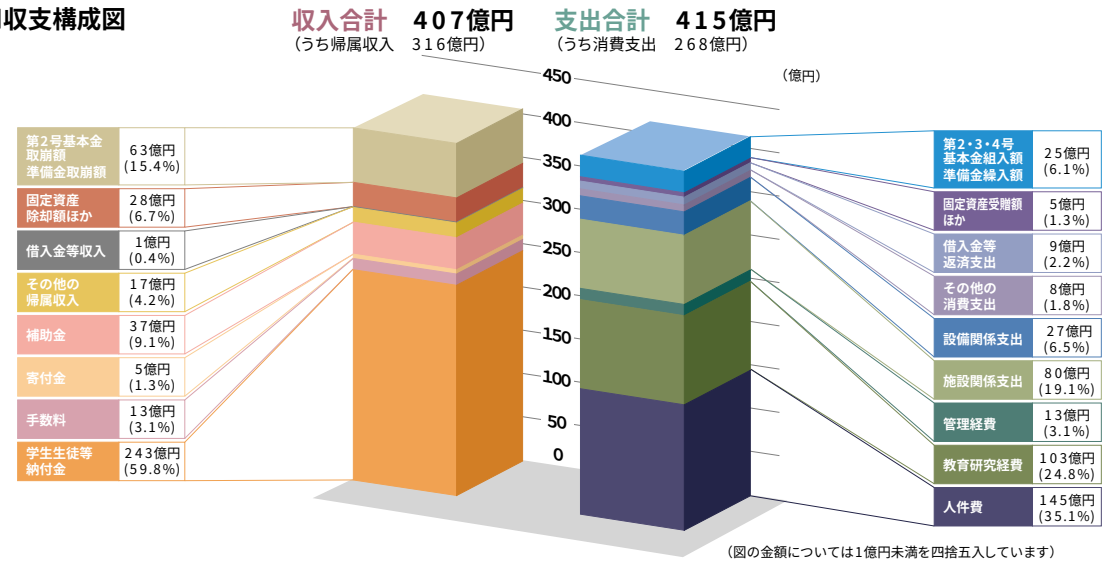
● 収支計算書 ●

学校法人会計基準に基づく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているので、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが『収支計算書』です。

● 基本金 ●

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。
収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産（施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産）の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。
第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。
第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

■収支構成図



（図の金額については1億円未満を四捨五入しています）

同志社人訪問

有職御人形司 伊東久重 十二世さんに聞く

奥田●伊東さんはなぜ同志社大学で学ぼうと思われたのですか。

伊東●両親は私に美術を学ばせたかったようです。実際、公立の美大を受験しましたが、数学や理科が苦手で失敗しました。同志社大学を選んだのは、周りの友達につられたところが多分にあります。でも、結果的にそれが良かったと思うのです。美大では、どうしても教授の作風に縛られてしまい、自由な発想力を身につけることは難しかったと思います。

奥田●同志社大学の自由な学風が伊東さんに合っていたのですね。

伊東●今でもそうだと思いますが、私が通っていたころは、同志社は他大学に比べるとずば抜けて自由でした。そうした空気を呼吸することで、自分の中にも自由な発想が培養されたのでしょう。私の創作活動には必要なことだったのです。

私は御所人形を作っているわけですが、御所人形といっても、皆さんはあまりご存じないでしょう。たいてい、人形師というと雛人形を作っていると思われてしまいます。これでは駄メだと、37歳の時、初めて御所人形の個展を開きました。それまで伝統な御所人形の個展を開いた人はいませんでした。そういう発想がなかったのです。同志社大学に通っていたからこそ、「御所人形の個展を開いたっていいじゃないか」という発想ができたのだと思います。

奥田●伊東さんはとても物静かな印象の方ですが、応援団指導部員だったと伺って驚きました。

伊東●高校までずっとボンボン育ちだったので、あえて自分を鍛えてみようと思い入部したのです。先輩後輩の上下関係を叩き込まれたせいか、普段から腰が低いと褒められます(笑)。

円山公園で行った同立戦の前夜祭や、試合後雨に打たれながら、相手より少しでも長く応援席に残っていられるか競ったことなど、思い出すのは野球の応援合戦ですね。また、当時は旧大学会館の建設が始まった頃で、建設反対派の学生デモを抑える役割が体育会の学生にありました。しかしデモが終われば、反対派といえども同じ同大生ですから、一緒に飲んではお互いのことを認め合う関係でした。みんな一生懸命で、熱かった。いい学生時代だったと思います。

奥田●その後、本格的に人形制作の修行を始められたのですね。伊東さんは有職御人形司の十二代目を継ぐことに対して、プレッシャーはありましたか。

伊東●そうですね。幼い頃から、いずれ跡を継がなければならないという意識はありました。職住一体の生活ですから、両親に話しかけようにもいつも仕事中。人形で遊んでいるうちは、勉強について口うるさくは言われませんでしたね。でも、跡を継ぐのが嫌になった時期もありました。中学時代の反抗期の頃です。こんな作務衣を着るのは嫌だと(笑)。

奥田●でも、最終的には御人形司をめざされたのですね。

伊東●十一世の父は体が弱かったので、祖父は早く私が十二世を継ぐことを望んでいました。大学2年次生の時に父が亡くなると、祖父は

INTERVIEW

有職御人形司　十二世 伊東久重さんに聞く

よけいに私に期待を寄せ、目を掛けてくれました。そんな祖父を喜ばせたい、祖父に恩返しをしたいという思いで、跡を継ぐことを決意し、人形作りに集中するために大学を辞めました。そうして、1978年に有職御人形司十二世伊東久重を襲名しました。残念ながら、その時には祖父はすでに他界していましたが。

奥田●お祖父様から人形作りの技術を学ばれたのですね。

伊東●ほとんどを祖父から教わったといってもいいと思いますが、そこに自分のアイデアも加えています。例えば、人形の顔には胡粉（ごふん）と二カワを混ぜた白い液を塗ります。その配合は一子相伝で、代々口伝えされます。ところが現代の住宅事情では、どこでも冷暖房が整備されていますよね。すると、乾燥しすぎて顔にヒビが入ってしまうことがあり、これを防止する配合を私なりに工夫しています。顔の描き方でもそうです。初めは先代の真似をする。真似ができて初めて、自分なりの顔が描ける。最初からまったく違うものを作るのであれば「伊東久重」を名乗ることはできないわけです。「伊東久重」が代々伝えてきた技術をまず受け継いで、そこにプラスする。それをまた次の代に伝えていく。その繰り返しですね。だから私も、伊東久重という長い歴史の、途中の何十年間かを生きているだけなのだなと思います。私の息子も、今は私を真似ていますが、やがて自分のものにする時が来るでしょう。息子には幼い頃から人形作りの話を聞かせていますから、壁にぶち当たった時はその時のことを思い出してくれると思います。いずれは息子に名前を譲り、私はまた違う名前で活動するつもりです。ちなみに、1歳の孫はもう人形で遊んでいますから将来が楽しみです。

奥田●現在のように、一般の方でも御所人形が手に入るようになったのはいつ頃からなのですか。

伊東●御所人形はもともと、江戸時代、朝廷や公卿が慶事に飾ったり、大名からの贈り物の返礼として使っていたものです。一般の人に知られるようになったのは、先々代である祖父の頃からでしょうか。今はおみやげ用に、粘土を型押しして作られた御所人形風の人形が安価で売られていますが、全然違うものです。

奥田●作る過程で最も気を遣うのはどのあたりですか。

伊東●顔を描く時ですね。目や眉毛を描く時はもちろんですが、紅をひく時も緊張します。肌が真っ白で、目と眉毛が黒ですから、口に紅をひく前は、死んでいるような顔なのです。ところが口に紅をひいた瞬間、ぱっと命が吹き込まれる不思議な感じがします。私の一番好きな瞬間ですね。肌の白にも血が一気に通う感じがするのです。

奥田●一見すると同じ笑顔に見える人形も、よく見ると表情に微妙な違いがあって面白いですね。

伊東●目の形、眉の形、くちびるの形はその人形を作った時の精神状態が大きく影響します。1日ずれても同じ表情を作るのは難しいです。

　私は他に、人形の修理も行っています。江戸時代の大名家に伝わる人形の多くは、作られてから200年ほど経ち、多くは修理をすべき時期を迎えています。当時の人形は土台がしっかりしているので、200年はもつのです。

奥田●古い人形を修理する技術はどうやって学ばれたのですか。

伊東●これも祖父が教えてくれました。伊東久重の名を継いだ者は、先祖が作った人形を必ず修理できなければなりません。「伊東久重の人形を買えば、何代後でも直してくれる」という信用を得ることが重要です。

　伊東家が作った人形の修理以外に、博物館などから依頼を受けて修理を行っています。古い人形を手にとって触ることで、ガラス越しでは分からない昔の技法が勉強できるので、それも私の師匠みたいなものですね。難しいのは、時代の色や作者のくせを残すことです。特に、個人の持ち主の方は愛着を持っていらっしゃるので、修理前には人形を写真におさめて、元の状態を崩さないように注意深く慎重に作業をします。

奥田●先ほど「伝統的な御所人形の個展を初めて開いた」とのお話がありましたが、それ以前はどうして個展を開かれなかったのですか。

伊東●伊東家では代々、注文を受けてから人

伊東（いとう）　久重（ひさしげ）さん

【1964年文学部第2部文化学科国文学専攻入学】

1944年京都市生まれ。1767（明和4）年、初代が後桜町天皇より伊東久重の名を賜る。皇室御用の唯一の御所人形司として、代々天皇家の人形を制作してきた。当代は1978（昭和53）年に十二世を継承。現在も皇室の慶事のたびに人形を作り納めている。伝統的な御所人形の制作の他、日本各地に伝わる人形の修理復元も手がける。

●『伊東久重　御人形展』
11月17日（水）～23日（火・祝）
京都高島屋で開催予定

INTERVIEW

有職御人形司　十二世 伊東久重さんに聞く

（注）２００４年度新設科目。明確な目標・計画案に基づく調査・分析・報告・発表を一連のものとして進めるグループワークを基本とする。「特殊演習４・５『京都の伝統文化はグローバル・スタンダード！』有職人形司十二世　伊東久重の世界」
１月頃、学生たちの成果となるＨＰ公開予定。

形を作っていました。個展を開くためには、作った人形を売らずに、手元に置いておかなければなりませんが、そういうやり方をしていなかったのです。

奥田●伊東さんの代から、個展に向けた人形作りが始まったということですね。

伊東●そうです。一番最初の個展は東京でした。日本の中心の東京、その中心の銀座の和光ホールでいたしました。同じやるなら日本のど真ん中でと思ったのです。しかし、何もかも初めてのことで手探り状態で、苦労しましたが、お陰様で皇室の方々もお越しいただき、大成功でした。次の年から京都の高島屋でもするようになり、どちらの会場もいつも大盛会で喜んでいます。個展や展覧会は御所人形を世間に広く知ってもらえる機会ですから続けていきたいと考えています。

奥田●先日はウィーンで個展開催されたと伺いましたが、大盛況だったようですね。

伊東●群馬県桐生市に、私の人形をかわいがってくださる方がいます。その方が中心になって、ウィーンの日本大使館に何体かの人形を展示してくれました。それを見た外国人の間で評判になり、今度はウィーンの日本大使が個展の開催を薦めてくれました。ただ、多くの人形を航空便で輸送するには保険等多額の費用がかかるので、どう工面しようかと悩んでいました。すると、その方がウィーン行きのツアーを組み、人形の数だけ参加者を集めてくれました。なんと1人1体ずつ、手荷物として人形を運ぶというわけです。おかげで、人形は無事にウィーンに到着することができました。

奥田●ファンの方の熱意が感じられるエピソードですね。

伊東●ウィーンで個展を開きませんか、と言われた時は正直ためらいました。でも、行くべきか留まるべきかの岐路に立ったとき、私は必ず行くほうを選びます。「迷った時は、やる！」。ダメならダメで、またやり直せばいいのです。こういう柔軟な発想も、同志社で培ったものかもしれません。

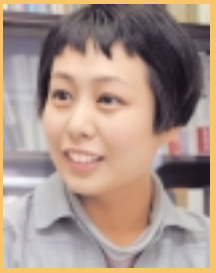
個展の会場にはお茶の道具やお菓子を持ち込み、皆さん和装で、しかもボランティアで来場者の接待をしてくれました。これが現地の新聞やテレビに取り上げられ大変な話題となり、フランスやモナコからも個展を開いて欲しいという話をいただいています。私は本当に人に恵まれているなあと喜んでいます。

奥田●最後に、学生にメッセージをいただけますか。

伊東●長年、同志社女子大学で科目を担当し、今年は同志社大学文学部のプロジェクト科目（注）に関わっています。学生の皆さんからは人形のことを知りたいという熱意が伝わってきて、とても嬉しいです。皆さんには、一生懸命になれる何かを見つけてもらいたいのです。そして、やるべき事はきちっとやる、遊ぶ時はとことん遊ぶというように、メリハリをつけると本当の楽しさがわかると思います。自分はこのようなことがしたい、こういう人間になりたいという思いを持ち続ければ、願いはきっと叶うと思います。

奥田●本日は興味深いお話をありがとうございました。

INTERVIEWER



奥田 友理（おくだ ゆり）さん

【大学院文学研究科国文学専攻博士課程（前期課程）１年次生】

文学部プロジェクト科目（特殊演習）に参加。講演会の企画を担当する。文学研究科では、江戸時代に盛んだった見世物や大道芸などを研究している。

伝統を守り、かつ新しいことへ挑戦しつづける伊東さんの姿に感銘を受けました。

御所人形の存在を知ったきっかけは、文学研究科に入学して間もなく、プロジェクト科目のポスターを偶然目にしたことです。御所人形の持つ独特の表情、愛らしい形の虜になった私は、大学院生でありながら、文学部プロジェクト科目のメンバーに入れていただきました。展覧会の冊子や人形制作過程をおさめたビデオで御所人形のことを深く学び、7月10日に開催された講演会の企画・運営などを行いました。改めてお話を伺った今回のインタビューでは、伊東さんが伝統を踏まえた上で、新しい試みに前向きに取り組んでいらっしゃるお話に感銘を受けました。また、技術の向上を求め続ける伊東さんの姿を見習って、何事にも一生懸命に向き合ってみようと思います。

人文科学研究所第53回公開講演会　―幕末から明治へ―時代を読み解く―

『新選組と武州多摩の人びと ―故郷に送られた近藤勇書簡を読む―』

昨今、多くの方が新選組に関心を持っています。しかしドラマや小説などの影響が強く、事実とフィクションの境界はとてもあいまいです。本日私が話す内容は、フィクションに陥りやすい回想録の類は一切用いず、近藤勇らが書いた書簡を基にしています。私は、近藤が書いた書簡25～26点のうち、約20点を読みました。そこから見える新選組の姿について話をします。

近藤は、武州多摩、つまり現在の東京都や埼玉県などに数千の門人を抱える天然理心流という剣術の宗家第四代です。門人の多くは、幕府直轄地の行政を司っていた豪農です。近藤の書簡とは、その門人に宛て、京都の政局や自らの政治思想を書き綴ったものでした。

最初の書簡は、1863（文久3）年2月23日、浪士組の一員として上洛した直後に書かれたものです。清河八郎が学習院（皇帝学構）へ提出した建白書の内容とそれに対する朝廷からの評価のほか、資料として建白書の全文と朝廷から堂上方（公家）に下されたお達し全文が書き添えられていました。また、将軍家茂が京都から江戸に戻って20日以内に朝廷から攘夷決行の沙汰が出るだろうという情報も書かれています。当時の政治情勢について詳しく触れている事実から、近藤にとって最大の関心事は政局だったことがうかがえます。この時代、地方の有力者には、国書や条約といった国政の情報はかなり詳しく伝わっていました。地方の治安維持に必須の情報だったからです。近藤はそれを踏まえて、武州多摩の門人に情報を送ったのだろうと思います。

3月26日には「志大略相認書」という書簡が送られます。「表ニ者尽忠報国（を）飾り、内ニ者徳川家（の）権威（を）削ごうとしている者を排除することが朝廷と将軍の守護につながり、天下の安全を実現するための最重要課題である「攘夷」の決行が可能になる、という政治判断が示されています。近藤らの「赤心報国」の志は、京都守護職松平容保に評価されました。それ以降、新選組は会津藩御預として、京都の朝廷と将軍を守護するという活動を開始します。

また、近藤は書簡の中で、攘夷の決行をなすべき将軍家茂に関東下向を急がせた幕府を批判しています。それは、彼が今何をすべきかを、はっきりと認識したからです。つまり、国家の大事を乗り切るには朝廷の意向に沿って攘夷決行することが必要であり、そのためには将軍が京都にとどまったまま、朝幕一体となって国内の混乱を鎮めるべきだという主張だったのです。一般的に、新選組は佐幕派だと考えられがちです。しかし、新選組は、勤王派で攘夷派です。当時の幕府は、開国路線にありました。外国には軍事的に太刀打ちできないと分かっていたからです。一方、孝明天皇は攘夷派でした。孝明天皇の意志のもとに攘夷を決行するという考え方は、この時代の政治運動家に一般的でした。志を持ってこの時代に動き出した政治運動家は、ほとんど攘夷派です。

そして、彼の主張である朝幕一体化とは、つまり国内一体化でした。諸外国と渡り合う時、国内が混乱状態にあっては力を発揮することができません。その混乱の原因である長州藩を征伐し、朝廷の攘夷の意志を幕府が実行する体制を整えるというのが彼の政治課題でした。そして新選組の意義とは、朝廷に対して忠義を尽くし、身は攘夷の実行機関である幕府に捧げることだったのです。この朝幕一体化という議論は、孝明天皇の意向を受けた将軍後見職の一橋慶喜、京都守護職の会津藩主松平容保、京都所司代の桑名藩主松平定敬による「一会桑」という政治勢力の思想にほぼ一致します。近藤の政治論には彼自身の独特な観点もありますが、一会桑勢力の影響を大きく受けているといえます。したがって、「勤王派対佐幕派」のような単純な図式でこの時代を捉えることはできないのです。これが、書簡類から看取できる新選組の姿です。

鶴巻　孝雄さん
東京成徳大学人文学部教授。
1948年生まれ。専門は日本近代史。著書に、『近代化と伝統的民衆世界』『石阪昌孝とその時代』（共著）など。

書簡を通じて、近藤から京都の情報を受け取っていた武州多摩の人々は、対外的な関心、政治的な関心、地域社会への関心を強く抱きます。1868（慶応4）年、鳥羽・伏見の戦いで新選組が敗れて江戸に戻った後、彼らは農兵隊を結成して銃を装備し、新政府軍と戦うまでになりました。その中から薄井盛恭や石阪昌孝ら、後に自由民権運動のリーダーになった人物も輩出しました。新選組・近藤勇が京都で起こした政治運動は、武州多摩の門人による自由民権運動へと繋がっていったのです。

CAMPUS NEWS

キャンパスニュース

対話による問題解決をめざす、世界学生会議が開催

5月29日・30日、明徳館と寒梅館を舞台に、学生による国際会議「世界学生会議4th Stage」が開催された。

主催は京都・東京を中心に学生約150人で組織する「世界の若者による対話―RING」。その京都代表を務めるのは太田世一さん(法学部法律学科4年次生・写真中央)。2002年9月11日に起きた米国同時多発テロについて学生が討論するテレビ番組を見た太田さんは、紛争・戦争問題の解決には武力ではなく、互いの違いを認め合う「対話」こそが必要なのではないかと考え、2002年11月に第1回を開催。やがて紛争・戦争だけでなく、テーマは人権、環境、都市計画にまで広がっていき、現在では、世界の諸問題の解決策を模索する団体として活動中だ。

今回は、ジャーナリストの小田切拓氏、東京大学大学院教授の藤原帰一氏による講演会、パネルディスカッションなどを行った。パネルディスカッションには、パレスチナ人学生や医療研修で来日中のイラク人医師、他に中国、韓国、イスラエル、アメリカからパネリストを招致。国家間の問題でも、その土地で暮らす一般市民の生の声を聞かなければ理解できないとの信念からだ。「もちろん、1人の意見が国の代表意見にはなりません。しかし、その言葉から現実をよりはっきりと想像することができます。将来、私たちの世代が社会の中心になった時、この経験を基に世界情勢を把握することができれば、今より少し状況は好転すると思います」と太田さんは語る。次回世界学生会議は、今秋東京で開催される予定だ。

明徳館1Fラウンジがアートイベント会場に

明徳館1Fラウンジを使ったアート企画展「森の中の深い流れ」が、6月16日から2週間にわたって開催された。

企画は、佐藤琢磨さん(アメリカ研究科博士課程(前期課程)1年次生・写真右から2人目)を中心として結成された「A+Lpro.ject(エルプロジェクト)」。森家由起氏の陶器製の立体作品展示(写真)、佐原誠氏による釣り糸とおもりを使った空間演出とライブ用のコスチューム、カルナ・カツゥーム氏の音響がインスタレーションを構成した。立体作品は手で触れることができ、来場者は視覚だけでは得られない体験ができる。

「テーマは『森』だったのですが、学生に展示の印象を聞いてみると『故郷の海』『母体』など、人それぞれの反応が得られました。開催期間を2週間と長くしたのは、最初は違和感を感じた人もいつの間にかこの空間に馴染んだり、想像力を自由にふくらませたりする時間が必要だったからです」と佐藤さんは説明する。期間中はワークショップを開催しながら、ラウンジの一角を確保。その狙いは成功し、訪れた学生の反応が日々変わっていく様子を見ることが楽しみだったそうだ。スタッフの小谷直正さん(アメリカ研究科博士課程(前期課程)2年次生)は、「実はアートに関心があったんです」と話しかけてくれる学生が何人もいて、アートを通して人のつながりができることが嬉しかったですね」と語る。エルプロジェクトでは、作品展にとどまらずアートと出合うきっかけづくりの場を提供する活動を続ける予定だ。

「新島杯」英語弁論大会が8年ぶりに開催

6月19日、今出川校地同志社礼拝堂で同志社大学ESS主催「第31回新島杯争奪全日本学生英語弁論大会」が開催された。

1966年から始まったこの大会は、ESSスピーチセクションの部員減少により、1996年(第30回)を最後に一時中断されていた。伝統ある弁論大会を復活させようと、佐野正明さん(経済学部3年次生)らが中心となり、今回の開催にこぎつけた。そのきっかけは、「新島杯」の由来を知ったことにあるという。

「新島杯」は、1874年、渡米中の新島襄がヴァーモント州ラットランドのグレース教会で「日本にキリスト教主義の学校をつくりたい」と演説し、寄付金を募ったエピソードに由来する。新島のスピーチは聴衆を感動させた。聴衆の中には、手持ちの全財産であるわずか2ドルを、帰りの汽車賃で要るにもかかわらず、差し出した農夫もいたという。そして集まった寄付金は同志社開校の礎となった。「私たちもこの新島精神にならって、若者が社会にメッセージを発信する機会を作りたいと考えました。ただ、前回開催から8年も経っているので、部内にマニュアルがほとんど残っていなかったのです。スポンサー探しや大会当日の運営など、ほとんど手探りの状態でした。苦労はしましたが、大会終了後、審査員の先生方や参加者、観客から『こんなにいい大会、他にないよ』と褒めていただいたので、苦労が報われましたね」と佐野さん。通常、参加資格はESS部員に限られるが、同志社のオリジナリティーを出すため、一般学生の参加を認めたことも成功の一因のようだ。佐野さんは、「『新島杯』が今後も続くように、大会の意義を後輩に伝えていきたい」と充実した表情で語ってくれた。

太田雄貴さん(体育会フェンシング部・商学部1年次生)がアテネオリンピックに出場

21世紀最初のオリンピック(夏季大会)となるアテネ大会に、体育会フェンシング部の太田雄貴さん(商学部1年次生)が出場した。フェンシング界史上最年少のオリンピック出場という快挙であった。

壮行会は、7月9日のランチタイムに、今出川校地明徳館前で行われた。現役学生のオリンピック出場は8年ぶりで、猛暑の中、大勢の学生たちが集まり、太田選手にエールを送った。

それに応えて太田選手から「一試合、一試合、自分らしさを出していければ」とメダル獲得に意欲をにじます決意表明があり、おおいに会場を沸かせた。日本代表として、また、同志社大学の代表としてオリンピックで堂々と戦ってくるという自信に満ち溢れた笑顔が印象的であった。

この後、太田選手はテヘランで開かれたワールドカップイラン大会(7月18・19日)の男子フルーレ個人で、日本人選手として初めて優勝し、オリンピックに向けて弾みをつけ、アテネへ。

オリンピックでの結果は9位だった。

また、卒業生の活躍にも注目したい。朝原宣治選手(95年商学部卒)が陸上競技400mリレー決勝で、日本記録に迫る38秒49で4位。惜しくもメダルを逃したが、過去最高順位となった。

佐竹美都子選手(99年経済学部卒)、吉迫由香選手(02年文学部卒)ペアがセーリング女子470級で、11位。

宮本慎也選手(94年商学部卒)は野球代表チームのキャプテンを務め、銅メダルを獲得した。

また、9月17日から開催されたパラリンピックでは、車いすフェンシングの監督として、小松真一さん(77年商学部卒・日本車いすフェンシング協会理事長)が参加。メダル獲得をめざして指導した2選手が出場した。

今大会は、オリンピック発祥の地、ギリシャ・アテネでの108年ぶりの開催で、近代オリンピックの節目となる意味深い大会であり、同志社人が活躍した印象深い大会でもあった。

雅楽師の東儀秀樹さんが寒梅館でコンサート開催

雅楽師の東儀秀樹さんを招いて、5月15日、寒梅館のパーティーホールで「東儀秀樹コンサート」が開かれた。このコンサートは、寒梅館オープニングプログラムの

一環として催されたもの。事前に配られた入場整理券は配布後すぐになくなる盛況ぶりで、会場を埋めた観客は、雅楽器の音色と東儀さんの歌声とトークに酔いしれた。

コンサートでは、笙や篳篥の雅楽器とピアノやシンセサイザーで奏でるオリジナル曲『Eternal Vision』や『New ASIA』などをはじめ、ザトウクジラの鳴き声が印象的な『くじらたちのうた』、ピアノによる即興演奏、深く染み渡る歌声の『イマジン』など、さまざまな曲が披露された。

曲と曲の合間には、雅楽の魅力や自身の音楽観などを紹介。東儀さんは、「雅楽で使われる笙は天、篳篥は地、龍笛は天と地を結ぶ空を表し、その3つの音色を奏でることで、宇宙を表現するという考えがあります。また雅楽には、科学や統計学、天文学などが取り入れられており、平安時代から変わらない高い完成度と深い世界観をもっています」と、古典雅楽へ敬意を示す。しかし、音楽に優劣はないという。

「私は幼いころから、ロックやジャズなど、いろんな音楽が大好きでした。雅楽の世界に入ったのは他の人と比べてかなり遅い18歳の時で、誰もが無理だと言いました。しかし、多くの音楽に触れてきたおかげで、いろいろな角度から雅楽を見ることができました。そこから、自分なりの音楽がフッと沸いてきました」。好きなことに夢中になり、いい回り道をしてきたと語る東儀さん。その姿勢には、1300年の間雅楽を世襲してきた東儀家を背負っているという気負いはない。

雅楽を中心に、さまざまな活動を行う東儀さんは、コンサートの中で「また違ったかたちで、ここにもどってきたい」と語った。今回とは一味違う東儀さんをハーディーホールでまた見られることを期待したい。

第29回外国文化週間

6月22日から28日にかけて、毎年恒例となっている言語文化教育研究センター主催の外国文化週間が京田辺校地で開催された。今年のテーマは「異文化の中の『ニッポン』」。「日本文化」が異文化においてどのように受容され、変容されているのか考察し、日本文化や異文化の理解、さらには文化の本質や普遍性に関わるトピックを扱った。

映画祭として「ライジング・サン」を上映し、上映後には映画の内容に関して質疑応答やディスカッションが行われ、観客は能動的に映画鑑賞を楽しむことができた。

和泉真澄言語文化教育研究センター助教授による和太鼓についての講演、翻訳家の児島宏子氏によるロシアのアニメーション監督ユーリ・ノルシュテインと日本文化の影響についての講演が行われ、どの講演でも一般市民の参加が多く、講演後も香柏館ラウンジで熱心に質問する姿が見られた。

日本舞踊家である西川千麗氏の講演では、西川氏が創作舞踊「鳥の歌」を舞い、多くの観客が日本舞踊の既成概念を超えた斬新さと美しさに感銘を受けた。舞の後、講演が行われ、学生からも西川氏の舞と海外公演に関する多くの質問があり、講演時間を延長するほどの盛り上がりを見せた。

外国文化週間も今年で15年目を迎え、学外からも多くの方に参加していただいている。京田辺キャンパスの活性化を担うため、これからも多くの人々に参加していただけるような文化的空間を提供していきたい。

今秋第30回も同じテーマで、様々な文化現象を取り上げていく予定である。

（言語文化教育研究センター助教授　星　英仁）

今井紀明さんと語るジャーナリズムの未来

イラク拘束事件被害者の今井紀明さんが、6月30日と7月1日に今出川校地で講演した。文学研究科新聞学専攻と文学部社会学科新聞学専攻の浅野健一ゼミが主催した。今井さんが帰国後に講演したのは初めてで、計約250人が参加した。

今井さんがイラクに入ったのは、劣化ウラン弾の危険性や攻撃される側の悲惨さを伝えるためだった。4月の事件を振り返り、「イラクでは令状もなしに拘束される人々が無数にいる。彼らの方がよほど苦しんでいる。彼らにはあのような表現しかできなかったと思う」と語った。また、「日本では国家の力が大きくなっている」と指摘。各自が社会に対し、関心や問題意識をもって行動に移していく「自立した個人」になろうと強調した。

講演の最後には、学生らが各自の夢を語り、意見交換し、大きな拍手で干ールを送りあった。

今井さんは今もジャーナリストを志望している。メディアの仕事をめざす学生たちが、19歳の講師との対話を通して「自治自立」という新島襄の精神を受け継ごうと誓い合った。

（文学部4年次生　米林敬幸）

2004年度「特色ある大学教育支援プログラム（GP）」に採択された新たな教育支援プログラム

財団法人大学基準協会による「平成16年度特色ある大学教育支援プログラム」（Good Practice 以下GP）の審査の結果、同志社大学が応募した学生支援センターを中心とした学生支援の取り組み「大学コミュニティーの創造―コミュニケーション・デバイドの克服―」が採択された。文部科学省が進める教育改革のひとつである「GP」は、特色ある優れた取り組みや継続的な成果をあげている取り組みを積極的に支援するもの。同志社大学は「学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関する」項目での採択となった。キャンパス・コミュニティーを自覚的に形成するプロセスを通じて、学生自身が「インキュベイト」「共存・交流」「成長・拡がり」の3つの段階を経て、現代の学生が共通的に抱える課題を克服していくことが今回のテーマだ。学生の自律的成長を促し、その成果を再びコミュニティーに還元させるために、随所に「学生が学生を巻き込む」仕組みを設けて、支えられる側の学生はもちろん、支える側の学生の教育効果にも力点を置く。こうしたこれまでにない意欲的な試みであることが、大学本来の姿に正面から取り組んでいるものとして評価を受けた。

全南大学（韓国）との学術交流協定記念式・記念講演会が開催

同志社大学と韓国・全南大学の学術交流協定を記念し、7月30日に京田辺校地恵道館で記念式・記念講演会が開催された。全南大学は光州市にある国立の総合大学（学部生1644人、大学院〈修士〉1669人、〈博士〉674人、専任教職員1016人）。工学部は1998年から学部間協定を結び、隔年でシンポジウムを開催するなど、本格的な学術交流を行ってきた。今回、包括協定を結ぶことで、より全学的に学生・学術交流が深まることになる。記念式では、田端信廣副学長とHyun-Teh KIM全南大学副学長が挨拶。記念講演会では、森田進恵泉女学園大学教授が『詩人・鄭芝溶と尹東柱―同志社の韓国留学生―』をテーマに講演を行った。

寒梅館で「タウンミーティング イン 京都」開催

8月22日、今出川校地寒梅館のハーディーホールで、ISFJ日本政策学生会議と内閣府大臣官房との共催で「タウンミーティング イン 京都」を開催した。

ISFJ日本政策学生会議とは、経済学を学ぶ関東・関西の大学生によって運営される非営利の政策シンクタンクで、学生と実際の政策担当者との意見交換を通してゼミでの研究活動の成果を政策として提言する場である。公共経済学を中心に学ぶ経済学部伊多波良雄ゼミは、2年前からISFJに論文提出を行っており、財政部門で優秀賞を受賞している。

今年の「ISFJ夏の政策シンポジウム」は、伊多波ゼミ生が中心となって運営することになり、2カ月以上に渡っての内閣府との交渉の末、小池百合子環境大臣と竹中平蔵内閣府特命担当大臣を招いて「環境と経済を考える―地球温暖化問題について―」というテーマでの「タウンミーティング イン 京都」と逢沢一郎外務副大臣をお招きしてのパネルディスカッションなどを開催した。

タウンミーティングの招致、交渉は予想を超えるハードなものだったが、開催にあたっては、同志社大学生らしい、通常のタウンミーティングとは違った特色を出したいと考え、大臣と同じ壇上で学生からの政策提言を行い、郡嶌孝ゼミの栗栖智宏さん（経済学部3年次生）が提言した。

伊多波教授をはじめ多くの職員の方々に協力していただき、当日は654人の参加者をえて、会場は満員となった。私たち学生も、一般参加者の市民の皆さんも、大臣との直接対話という貴重な機会を持つことができ、国の政策への理解と関心が高まり、大きな刺激を受けることができた。

これからも高い問題意識を持って、ISFJでの論文発表などを通して、ゼミという枠にとらわれることなく、政策研究・政策提言などの活動を行っていきたいと考えている。

（経済学部3年次生　寺田茉耶）

JR同志社前駅改修工事はじまる

―工事期間中の通学には十分注意して!!―

JR同志社前駅改修工事が2004年7月からいよいよ開始された。計画当初の完成時期は来年1月末頃であったが、JR側の社内事情や行政手続き等のため、大幅に遅れ来年3月頃の完成となる。

同駅は1986年の京田辺開校時に開設され、現在平日には1日約7千人が利用している。そのうち、通学ラッシュのピークとなる午前8時半頃は、乗降客がホームから落下する危険性まで心配されてきた。狭いホームと改札口、駅構内を出るため10分以上かかることが原因であった。こうした事態をうけ、今回ようやく同志社、JR西日本、京田辺市の3者による協力で新駅舎の誕生となった。

工事完了後の新駅舎と駅前広場は敷地約150平方メートル、ホームは約1.3倍に拡幅され、身障者用エレベーターやトイレも設置される。改札口も複数になり自動化される。工事の実施にあたり、利用者の安全な乗降を最優先課

題と考え、ガードマンの配置や、車内や駅構内での放送など、できる限りの安全策をJRが実施する。工事期間中は臨時改札口の設置による乗降や陸橋への階段が撤去されるなど、利用者に不便、迷惑をかけることになるため、大学からJRに対しては、通学の安全を確保するために最大限の努力を要請している。

JRを利用する学生の皆さんは、各自でも安全に十分気をつけ、ゆとりをもって家を出るなど、工事完成までの間、ご理解とご協力をお願いしたい。

（京田辺校地総務課）

同志社小学校（仮称）設置記者会見

5月29日、法人評議委員会・理事会終了後に同志社小学校（仮称）設立の記者会見を行った。

冒頭、野本真也理事長から、創立者新島襄の念願でもあり、ほぼ9年前から構想を練り、125周年記念事業基本計画にも盛り込まれ、理事会で小学校の設置が承認された経過が説明された。続いて大谷實総長から、キリスト教主義、自治自立主義、国際主義に基づく、特色のある教育を展開する小学校の理念、同志社一貫教育の理念などが語られた。次に八田英二学長から、小学校の概要が発表された。

同志社小学校（仮称）は、2006年4月に岩倉校地北グラウンドの内12、000m^2の敷地に設置し、クラス人数30人、1学年4クラス（予定）で開校をめざす。

また、同志社中学校が小学校の完成年度までに岩倉校地で高等学校と統合、移転する。大学として中学跡地をどの様に活用するか、将来構想と関連して検討を進める旨もあわせて公表した。

特定寄付奨学金募金協力者ご芳名

厳しい経済状況が続く中、経済的理由で修学を続けることが困難になっている学生が急増しています。大学にとって学生を救済する奨学金制度の充実は重要な課題であり、限られた財源の中でこれまでも力を注いできました。しかし、本学の財政は帰属収入の約8割を学費に依存しているため、学費以外の収入源の開拓を積極的に進めていく必要があります。2004年1月に寄付金を基金に組入れず直接学生に給付する「特定寄付奨学金制度」を創設しましたが、その原資とすべく、4月から「同志社大学特定寄付奨学金募金」を広く社会各界に呼びかけています。

8月末までに、卒業生および教職員の方々から以下のとおりご協力をいただきました。

卒業生および教職員

申込者数　62人

申込額合計　955、220円

教職員

申込者数　91人

申込額合計　8、455、000円

ご芳名（50音順　敬称略）

卒業生およびご父母　336、000円

榎　麻美　50、000円
加藤　雄一　松川　次生　40、000円
同志社大学工学部電子工学科　29、匿名2人　1、000円
太田研究室　30、000円
昭和51年・工学部電子工学科卒業生有志　53、000円
河村　忠紀　20、000円
藤谷　慎一　15、000円
関口　徹　森田　秀夫　10、000円
大岡　孝雄　廣坂　太郎　鵜沢　和久　今市　彰一　福川　順一
小田　邦宏　川上　裕之　皿井　幸男　崎山　中和　宏男　鈴下　貝村　勢二　永井　見　永田　昌宏　裕　八島　尚志　浜村　光久　山田　英史　青木　眞仁　赤木　眞亮　5、000円
石井　誠二　今川　敏博　潮田　光政　海和　博司　金村　憲二郎　木屋　篤　清一　小林　徹　後藤　順一　城越　信明　鈴木　淳二　田中　亮洋　中本　光治　中里　奈良　花園　堅二　益田　喜久雄　藤原　恵司　宮崎　絵司　毛利　勝彦　里　輝　森山　佳子　森田　政行　安田　隆一　安田　智朗　山田　雄二　横山　須美子　山田　弘樹

匿名　7人

教職員　1、000、000円

河村　隆夫　50、000円
匿名2人　50、000円
匿名1人　24、000円
大鉢　忠　20、000円
加地　伸行　15、000円
工藤　和男　10、000円
三上　保孝　12、000円
田中　謙二　11、000円
田中　真人　10、000円
圓月　勝博　10、000円
岡本　廣成　押市　貞　勝谷　國雄　神沢　興續　白石　正知　白水　廣夫　幸亀　尚己　高田　信芳　端廣　長山　忠樹　林　健二　藤井　邦宏　百合野　愛子　三上　正博　匿名1人　90、000円
片山　傳生　匿名2人　85、000円
川口　博　70、000円
橋本　宰　60、000円
坂井　克己　50、000円
石田　英子　井村　祥夫　田村　巧　岡村　徹　小村　米夫　河合　久孝　宜　光　木下　康次　大田　啓　小寺　洪水　澤　洋一　澤田　紀彦　高田　邦彦　長　美　林　廣利　永　有茂　福本　有利　山下　利彦　八木　匿元　森田　和彦　匿名　西川　真司　匿名1人　45、000円

高尾　和人　30、000円
森　佳世子　吉川　健　吉川　貴士　匿名6人　20、000円
今山　見　喜久雄　匿名1人　15、000円
太田　元　清水　ゆみ　あ　工藤　卓　西村　卓　北　幸史　10、000円
徐　啓和　白石　健治　髙橋　信生　土屋　卓司　野中　智德　浜田　美　吉輝　肥田　有智子　松浦　有里　脇田　廣子　匿名3人　5、000円
上田　曜子　石黒　武彦　西村　宏江

ご芳名のみ（申込額非掲載）

当募金は引き続き申込を受け付けています。皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

お問い合わせ先　財務部経理課

電話　075－251－3144

e-mail：ji-keiri@mail.doshisha.ac.jp

新任教員紹介

●このたび新たに5人の先生方をお迎えします。

①所属（学科）②職名③主な担当科目

越前　敏也（えちぜん・としや）

①文（文化）
②助教授
③美学・芸術学基礎演習Ⅱ

中村　百合子（なかむら・ゆりこ）

①文（文化）
②専任講師
③学習指導と学校図書館

小林　久高（こばやし・ひさたか）

①文（社会）
②教授
③社会学・特講Ⅵ

板垣　竜太（いたがき・りゅうた）
①文（社会）
②専任講師
③国際社会学

若林　邦彦（わかばやし・くにひこ）
①歴史資料館
②専任講師
③考古学

●退職教員紹介

原田　和郎　工学部教授は8月19日にお亡くなりになりました。

阪口　直樹　言語文化教育研究センター教授は8月29日にお亡くなりになりました。

Present for You

生瀬勝久さんのサイン色紙をさしあげます。

役者として舞台、映画、テレビ等で活躍中の生瀬勝久さんは、1986年文学部社会学科産業関係学専攻卒業。『大学案内2005』の取材時にサインをいただきました。ご希望の方は、官製ハガキもしくはE-mailで、住所・氏名・学部（卒業生の方は出身学部・卒業年）・「One Purposeの感想」をご記入のうえ、2004年10月31日（消印有効）までに広報課にご応募ください。抽選のうえ、3人の方にプレゼントいたします。発表は発送をもってかえさせていただきます。　※広報課の連絡先は裏表紙に記載

卒業式・学位授与式・入学式について

卒業式 学位授与式（学部）（大学院）

場所	日時	学部・研究科
栄光館	3月20日（祝）10時	法学部
		法学研究科
		文学部（英文学科・社会学科）
		文学研究科（英文・社会福祉・新聞・社会学・産業関係学専攻）
		ビジネス研究科
		神学部
		神学研究科
		文学部（文化学科）
		文学研究科（哲・文化史・心理・国文・美芸・教育学専攻）
	13時	商学部
		商学研究科
		アメリカ研究科
		経済学部
		経済学研究科
		総合政策科学研究科
	3月21日（月）10時	工学部
		工学研究科
京田辺校地デイヴィス記念館	3月22日（火）13時	留学生別科
神学館礼拝堂	3月19日（土）11時	

修了式（留学生別科）

入学式

場所	日時	学部・研究科
京田辺校地 デイヴィス記念館	4月1日（金）10時	商学部
		工学部
	12時	神学部
		文学部
		社会学部
	14時	政策学部
		文化情報学部
		法学部
		経済学部
神学館礼拝堂	4月2日（土）16時	留学生別科

入学式（留学生別科）

場所	日時	学部・研究科
栄光館	4月4日（月）10時	全研究科

入学式（大学院）

～卒業生の新刊図書～

西洋思想叢書
『道徳性の逆説―カントにおける最高善の可能性―』
倉本　香さん（1999年文学研究科博士課程（後期課程）退学）
晃洋書房　2800円（税別）

ちくま新書
『図書館に訊け！』
井上真琴さん（1986年文学部文化学科文化史学専攻卒業）
筑摩書房　740円（税別）

本学教員の新刊（総合情報センター調べ）

帝国アメリカのイメージ：国際社会との広がるギャップ
浅野　亮　他　著
早稲田大学出版部　3400円

今、礼拝を考える：ドラマ・リタジー共同体
越川弘英　著　キリスト新聞社　1600円

インターネットとパソコンを利用した英語教育
北尾謙治　著　同志社大学情報に関する協同研究チーム

社会福祉援助技術論（上）
岡本民夫　監修　川島書店　2800円

改訂版　社会福祉入門
岡本民夫　他　著　放送大学教材　3200円

新版　犯罪報道の犯罪
浅野健一　著　新風舎文庫　890円

魂の考古学
森　浩一　著　五月書房　1700円

民と神と神々と：イスラーム・アメリカ・日本を読む
森　孝一　他　著　関西学院大学出版部　2300円

平安文学研究ハンドブック
岩坪健　他　著　和泉書院　2500円

商行為法講義
伊藤靖史　他　著　成文堂　1800円

叢書現代メディアとジャーナリズム3　メディアの法理と社会責任
渡辺武達　他　著　ミネルヴァ書房　3500円

明日の外国語教育に向かって：言語文化教育研究センターのFD活動（2001―2003）
北尾謙治　西納春雄　編
同志社大学言語文化教育研究センター　3800円

エックハルト　ラテン語著作集2
エックハルト著　中山善樹　訳
和泉書館　8000円

セレクション社会心理学23　バーンアウトの心理学
久保真人　著　サイエンス社　1400円

「伝統的ジェンダー観」の神話を超えて
山田礼子　著　東信堂　3800円

源氏物語と帝
廣田　收　他　執筆　森話社　5600円

財務諸表論の基礎知識（第3版）
白石健治　他　執筆
東京経済情報出版　3800円

表象と生のはざまで
岩山太次郎、林以知郎、佐々木隆　斉藤延喜　他　執筆
南雲堂　8000円

いのちとすまいの倫理学
工藤和男　著　晃洋書房　1900円

WTO体制化のセーフガード
瀬領真悟　他　編著　東洋経済　3800円

ITと企業政策
太田　進　著　晃洋書房　2900円

新・国際政治経済の基礎知識
村田晃嗣　村山裕三　他　著　有斐閣　2400円

MY LIFE

「仕事」

こんなに話し上手になっていた。
英語でビジネス文書を書いていた。
卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して
級友の方々にとっては良き近況報告、
生活の現実を考える機会になれば幸いです。

MY JOB MY LIFE

オリンピック出場よりも、キャリアの充実を人生の目標に据える。

私は中学1年生から短距離走を始め、大学でも体育会陸上競技部に入部しました。1年次で競技メンバーに抜擢され、3年次ではキャプテンを務めました。トレーニング方法は自分なりに分かっているつもりでしたが、やがて全日本チームに入って驚いたことは、科学的で合理的な練習メニューと、一流選手の集中力でした。やるべきことをやれば結果がついてくることを実感した私は、毎年、自己ベストを更新し、第11回アジア大会(1990年)の1600mリレーで金メダルを獲得しました。ただ、国際大会に出場するよりも、同志社チームの一員として関西学生選手権などの大会に出場する方がプレッシャーは大きかったのを覚えています。キャプテンとして「同志社のために走るんだ」という思い入れがすごく強かったですから。

そのまま競技を続けてオリンピックをめざすという道も考えられましたが、1990年のスーパー陸上で自己ベストを記録して、悩んだ末、引退しました。私個人のアイデンティティーは、陸上競技だけにあるのではないと思ったからです。もしオリンピックに出場できても、先の人生をそれだけで生きていくことはできない。10年後、日本一足が速い30代になるよりも、しっかり仕事をして、家族を養える30代の方が自分にとって格好良いと思えたのです。そこで、スポーツビジネスに興味があったことから、そういった仕事に携わることができる博報堂に入社しました。

入社後は希望通りスポーツ事業局に配属され、プロ野球オールスターゲームやゴルフ、マラソンなどのスポーツイベントを手がけました。マーケティングの戦略、協賛企業との交渉、イベントの運営が主な内容でした。現在は新聞局という部署で、全国紙のメディア戦略を担当しています。売上の大きなウエイトを占めるメディア部門の中でも、とくに重要な部署だといえます。競合する代理店に勝つことが、私に与えられた使命です。なぜうちの会社なのか、なぜ自分なのか。得意先に真っ先に選ばれるメディア事業会社であるように、対外競争力の向上を心がけています。今は、学生時代にめざした30代の自分が実現できていると思っています。

採用面接をすると、学生の皆さんが一生懸命勉強してきたことを感じます。しかし、私たちが欲しい人材は、広告に詳しい人ではありません。判断力、実行力、柔軟性といったトータルな能力、つまり人間力の高い人なのです。学生時代に何を経験をしたかよりも、経験から何を学んだかのほうが大事です。そして、学んだことをはっきりと伝えられる人が、現場の経験を自分のものにできるのだと思います。

博報堂や博報堂DYメディアパートナーズには自由な雰囲気があります。だからこそ、自立することが求められるし、責任も伴います。この点は同志社の学風と似ていますね。自ら目標を立て、キャリアプランを描ける、そんな人と一緒に仕事をしたいと思っています。

後輩の皆さんには、学生時代自分を磨いて、精神力を養ってもらいたいです。そして、自信をもって社会に出てきてほしいのです。

PROFILE

岩佐 克俊（いわさ かつとし）さん

【1991年文学部社会学科
新聞学専攻卒業】

**株式会社博報堂DYメディアパートナーズ
新聞局新聞二部　キャップ**

博報堂、大広、読売広告社のメディア部門を統合し、昨年12月に誕生した株式会社博報堂DYメディアパートナーズ。岩佐さんは上司にも部下にも信頼が厚く、今年5月に組織された従業員組合の初代委員長に任命された。「部員をまとめ、共通の目標に向かわせるという点で、キャプテンの役目に似ている部分もありますね」と語る。

シリーズ MY JOB, 第25回 私と

学生時代、とても無口だったあの人が、
学生時代、英語の苦手だったあの人が、
このシリーズは、毎号それぞれの分野で活躍する
何を考えてきたかを取材しています。
学生諸君には将来のキャリア・プランと学生

MY JOB MY LIFE

努力と根性の営業から、問題解決型の営業へ。

学生時代は競技スキーに夢中でした。年間100日近く合宿があり、その間ずっと、先輩、後輩たちと寝起きを共にするという生活です。学生時代でなければできないこの経験で身につけたのは、周囲の人への気配りと、根性でした。合宿の費用を稼ぐために、派遣会社でアルバイトをしていました。酒販店で店頭に立つこともあり、そこで酒類業界の方との付き合いが生まれました。その結果、アルバイトが思いがけず企業研究の役割を果たし、社員のオリジナリティーを大切にしてくれるキリンビール株式会社に入社。大阪支社で酒販店担当の営業職として社会人のスタートを切りました。仕事にはすんなりと馴染めました。ただ当時は、女性の営業職はまだ珍しく、得意先からは女だからと相手にしてもらえないこともありましたが、そこは競技スキーで鍛えた持ち前の努力と根性で乗り切りました。会社に戻ると、同僚が温かく迎えてくれることも救いでした。

大阪支社で5年間勤務した後、金融機関に勤める夫の転勤に合わせて、横浜支社に転勤しました。1年後に1人目の子どもを出産しましたが、育児のことを考え、それまでの酒販店担当から、接待等夜の営業が少ないスーパー、ディスカウントショップなどの量販店担当に移りました。2人目の時は、出産ギリギリまで働きました。得意先の担当を交代されたくなかったのです。そこまで仕事にのめり込んだ理由は、改めて気付いた仕事の面白さです。私は30歳に近づくにつれ、努力と根性が頼りの「得意先に可愛がられる営業」のままで良いものか、と疑問を抱くようになりました。導き出された答えは、論理的思考で顧客の問題解決をめざす「得意先を引っ張る営業」でした。営業の現場で課題を発見し、論理的思考で解決策を提案する。私が面白いと感じているこの提案型営業は、今、得意先から求められているものそのものなのです。

若い社員と話をしてみると、彼らはみんな優秀で、高いスキルを持っていることがわかります。スキルも大事ですが、仕事の出来不出来を最終的に決めるのはその人の人柄、人間性ではないでしょうか。

私の周りには魅力的な人が大勢います。話をしていて楽しく、自分のためにもなり、すぐにまた会いたくなる人たちです。どうすれば自分も魅力的になれるかというと、まず多くの人と付き合い、1つの事象に対して多くの考え方が成り立つことを知る。同時に、深く掘り下げて考え、自分なりの視点を持つ。思考の幅と深さを持つことが重要だと思います。そして、気付いたことを日々の行動に生かす。「人と付き合う」「自分の考えを持つ」「行動に生かす」、この3つを繰り返すことで、人の魅力は増していくと信じています。学生のみなさんも、個々のスキルアップと同時に、年齢や職業を問わずいろいろな人との付き合いで体験を深めて、自分の魅力を高めていくことにより、自己実現をめざして取り組んでほしいと思います。

PROFILE

前田 長子（のぶこ）さん
【1990年文学部文化学科文化史学専攻卒業】
キリンビール株式会社
首都圏流通第5部（横浜）課長代理

小学3年生と保育園の年長組、2人の男の子の母親でもある前田さん。「子どもができて、仕事への制約は最大限になりましたが、その代わりに世界が広がりました。毎日、本当に忙しいですが、だからこそやりたいことが一杯。保育園の父母の会会長を引き受けていますし、冬になると近所の子どもたちにスキーを教えています。お母さん同士話をするのも、近所の友達と飲みに行くのも楽しいですね。私はどこへ行っても、何をしていても楽しめる性格です」と笑う。

寒梅館活用術～寒梅館の魅力を広く知って もらうため、館内施設を利用した企画を開催します

テーブルマナー講習

食事の場面でのスマートな立ち居振る舞いは洗練された印象を与えます。今さら人に聞けないけれど、知らないと恥ずかしいテーブルマナー。寒梅館7Fのフレンチレストラン「SECOND HOUSE Will」でディナーを楽しみながらマスターしましょう。
【日　程】会食／10月25日（月）　立食／11月9日（火）ディナータイム
【場　所】SECOND HOUSE Will（寒梅館7F）
【講　師】丸山洋子さん（食空間プロデューサー）
【料　金】未定
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課
【T E L】075-251-3270

クローバーシアター　～名画へのいざない

寒梅館のミニシアター・クローバーホールで映画史に残る名作を次々上映します。
【日　時】10月5日（火）～12月21日（火）の毎週火曜日16:45～
※都合により変更する場合があります。
【場　所】クローバーホール（寒梅館）
10月は「読書の秋 日本の文芸作品集」と題して小津安二郎をはじめとする名監督作品をラインナップしています。

E V E

【日　程】前夜祭　11月25日（木）
　　出店期間11月26日（金）～28日（日）
【場　所】今出川校地
【お問い合わせ先】全学EVE実行委員会
【T E L】075-251-4452

ふらっと 2004年度秋学期「♭（ふらっと）プログラム」

春学期にご好評いただいた「♭プログラム」を秋学期も実施します。話題の新作映画をDVDの美しい画質と迫力あるサウンドで上映する予定です。ご期待ください。
※ラインナップの詳細は立て看板、大学ホームページなどでお知らせします。
【日　時】毎週水曜日12:30～、15:30～
※内容・時間等は都合により変更される場合があります。
【場　所】京田辺校地 多目的ホール
クリスマス・ラウンジコンサート
【日　時】12月13日（月）～17日（金）12:30～
【場　所】京田辺校地 多目的ホールラウンジ
出演団体募集中！
【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課
【T E L】0774-65-7410

WOT（ワット）！

【場　所】ハーディーホール
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課
【T E L】075-251-3270
いずれも詳細は掲示や本学ホームページでお知らせいたします。
●タイムファイブ結成35周年記念コンサート
Timeless　Land2004 ～ ハワイアン・パラダイス
【日　時】10月28日（木）19：00開演
【料　金】4，500円　　全席指定
【チケット購入先】プレイガイドで発売中
※チケット購入に関するお問い合わせは、あぶろーず（077-511-2675）まで。
※80名様をご招待します。詳細は掲示や本学ホームページでお知らせします。

●BATI−HOLICライブ「シマグニ・ビート」
日本各地に伝わる和太鼓・踊り・唄に独自のアレンジを加えた楽曲、及び創作楽曲での演奏活動を行う京都発新進気鋭の「コア・ポップミュージック」ユニットによる情熱的なステージ！
【日　時】11月3日（祝）19：00～／4日（木）18：00～
【料　金】無料
※どなたでもご来場いただけます（事前予約不要）
●チャペルアワー共催企画：沢知恵コンサート
韓国で戦後初めて公式に日本語の歌を歌う等、日韓の架け橋として活躍中の沢知恵さんによるハートフルなコンサートをお楽しみください。
【日　時】11月11日（木）
【料　金】無料
※どなたでもご来場いただけます（事前予約不要）。
●映画試写会・上映会
日本で大ヒットした韓国映画の先駆け「シュリ」のスタッフによる最新作「TUBE」（今秋公開予定）の試写会（10／7、要整理券）、「赤目四十八瀧心中未遂」、「蕨野行（わらびのこう）」等の映画上映会を開催する予定です。

同志社グリークラブ創立100周年記念

【日　時】10月10日（日）
【場　所】今出川校地寒梅館　ハーディーホール
【入場料】無料　＊事前申し込み不要。当日、一般来場受付を開設します。
記念式典　11:00～（受付10:00～）
同志社らしい音楽祈祷の記念式典です。
レイボーコネクションフェスティバル（通称RCF）13:00～
コーラスフェスティバルを行います。70歳以上の卒業生から学生まで、卒業年ごとに9グループに分けて「月光とピエロ」や日本民謡、黒人霊歌や「ラ・マンチャの男」等を演奏します。たくさんのご来場をお待ちしております。

同志社大学マンドリンクラブ第145回定期演奏会

【日　時】12月4日（土）18:00～
【場　所】京都府長岡京記念文化会館
【曲　目】交響組曲「日本スケッチ」貴志康一/石村隆行編、チェロ協奏曲第一番ハ長調より（本邦初演、マンドラテノール独奏　堤千佳）　F.J.ハイドン/石村隆行編　他
【入場料】500円
【お問い合わせ先】マネージャー　杉浦:090-3881-9471、
クラブホームページ　http://www.donet.gr.jp./~smd/
チケットは生協カウンターでもお求めになれます。

スポーツフェスティバル2004 ～スポーツの秋、ふれあいの秋、同志社で秋！～

【日　程】11月6日（土・休講日）・7日（日）
【場　所】京田辺校地　※レガッタは別日程（11月21日（日））
【参加受付】10月12日（火）～22日（金）
【抽選発表、参加手続き期間】10月27日（水）～11月1日（月）
●スポーツフェスティバルプレ講演会
【日　時】10月21日（木）15:00～16:30（予定）
【場　所】京田辺校地　多目的ホール
【講演者】朝原宣治さん（商学部卒業生、体育会陸上競技部OB）
【テーマ】「同志社生活からアテネ秘話まで －3大会連続オリンピック出場を果たした先輩から－」
【お問い合わせ先】スポーツ支援課
【T E L】0774-65-7417【F A X】0774-65-7416
【E-mail】jt-sp01@mail.doshisha.ac.jp

新入生の学費について

　2005年度および2006年度入学生の学費については、7月15日開催の大学評議会ならびに7月31日開催の法人理事会において決定されました。
　詳細はホームページ（http://www.doshisha.ac.jp/jyuken/seikatsu/index.html）をご参照ください。
　なお、在学生の学費については、すでに入学時に明示しているとおりであり変更はありません。

障がい学生支援スタッフ大募集

障がい学生の自立支援と学生同士の支え合いをめざし、年間を通じてスタッフを募集しています。
～学内・学外を問わず関心のある方是非登録ください～

《アシスタントスタッフ（有償）》募集

聴覚障がい学生の講義保障…ノートテイク（筆記通訳）、パソコン通訳、手話通訳

授業で話されている内容やその場で起こっている音（チャイムなど）を手書きやパソコン入力により文字にして、または手話により伝えます。

《ボランティアスタッフ（無償）》募集

聴覚障がい学生への支援…ビデオ字幕付けなど
視覚障がい学生への支援…ガイドヘルプ、対面朗読、テキストファイル文字校正、代筆、代読など
肢体不自由学生への支援…車椅子介助、代筆など

「障がい学生支援」スタッフ勉強会

技術を身につけ磨いていくために、週に１回両校地で勉強会を開催しています。（日時、内容は決まり次第掲示します）

【お問い合わせ先】
今出川校地学生支援課
【ＴＥＬ】075-251-3270【ＦＡＸ】075-251-3099
京田辺校地学生支援課
【ＴＥＬ】0774-65-7410【ＦＡＸ】0774-65-7409
【E-mail】ji-gks01@mail.doshisha.ac.jp

Arte Fiesta―秋のデジタルアートコンテスト―

同志社ローム記念館を舞台に、デジタルアートのコンテストを開催します。奮ってご応募ください。

●ケータイフォトコンテスト

携帯電話カメラ機能で撮影した作品のコンテスト。「Oh! 美しき京田辺」「なんでやねん！」「ビフォーアフター」「再発見！ローム記念館」の４部門です。それぞれに最優秀作品を決定します。

●巨大ＣＧアートコンテスト

「→ふゆ→」をテーマにしたＣＧアートを募集。優秀作品１点が同志社ローム記念館を彩ります。

【募集期間】（ケータイフォト）10月１日（金）～10月30日（土）
（巨大アート）10月１日（金）～11月５日（金）
【投票期間】11月８日（月）～18日（木）
【応募方法】応募専用アドレスへのメール添付による応募
（メールアドレスは、追って、ポスター、HP等に掲載予定）
【審査方法】劇場空間設置の投票コーナー、HP上など
【授賞式場所】京田辺校地 同志社ローム記念館劇場空間
【お問い合わせ先】同志社ローム記念館学生コアスタッフホームページ
【ＵＲＬ】http://pj.drm.doshisha.ac.jp/
【E-mail】core-st@pj.drm.doshisha.ac.jp

●ローム記念館オープン1周年記念イベント

講演会　嘉門達夫的メディア論
【日　時】10月６日（水）　15:00～16:30
【場　所】京田辺校地　同志社ローム記念館劇場空間

（＾－＾）顔（＞＿＜）（かお　かお　かお）
【日　時】11月２日（火）　13:30～16:30
【場　所】京田辺校地　同志社ローム記念館劇場空間
【内　容】講演会「顔学への誘い―顔と電子情報科学の遭遇」
原島 博　氏（東京大学工学部教授・日本顔学会会長）
談話会　ローム記念館プロジェクト D4による顔CG作品を題材に、原島氏と学生メンバーとのディスカッション
詳しくは同志社ローム記念館ホームページをご覧ください。
http://rohm.drm.doshisha.ad.jp/

同志社大学　第30回外国文化週間

テーマ：異文化の中の「ニッポン」

【日　程】11月11日（木）～19日（金）
【場　所】京田辺校地
【入場料】無料（申し込み不要）

●映画「ミスター・ベースボール」（1992年／アメリカ／110分）
【日　時】11月11日（木）①12:45～　②16:45～
【場　所】京田辺校地 多目的ホール

●講演Ⅰ
【日　時】11月12日（金）13:15～
【場　所】京田辺校地 恵道館106番教室
【テーマ】「映像で語る ― アメリカ映画で作られた日本」
【講　師】チャールズ・フォックス 氏（立命館大学教授）

●講演Ⅱ
【日　時】11月16日（火）13:15～
【場　所】京田辺校地 同志社ローム記念館
【テーマ】「自然の中の折り紙」
【講　師】三浦公亮氏（東京大学名誉教授）

●講演Ⅲ
【日　時】11月18日（木）13:15～
【場　所】京田辺校地 知真館３号館214番教室
【テーマ】「ジャンル的日常としての怪獣―『ウルトラＱ』の驚異」
【講　師】三浦俊彦氏（和洋女子大学教授）

●コンサート
【日　時】11月18日（木）　17:00開場　17:30開演
【場　所】京田辺校地　多目的ホール
【テーマ】世界の中の琵琶
【演奏者】シルヴァン・旭西・ギニャール氏

●シンポジウム「世界の中の日本のマンガ」
【日　時】11月19日（金）13:15～
【場　所】京田辺校地 同志社ローム記念館
【パネリスト】しりあがり寿氏（マンガ家）
夏目房之介氏（マンガ・コラムニスト）
ジャクリーヌ・ベルント氏（横浜国立大学助教授）

アッセンブリー・アワー学生企画募集

講演会を中心にコンサート、展示会、映画上映など多様な形態で実施している「アッセンブリー・アワー」を皆さんのアイデアとプロデュース力を活かして実施してみませんか。

【応募要領】
- 募集する企画の実施期間：10月～12月
- 応募締切：10月15日（金）
- 所定の企画書（両校地学生支援課に有）を学生支援課に提出してください。
- 実施については学生支援課が選考・決定します
- 実施予算および補助額は、1企画5万円程度原則10万円を上限とします
- 企画終了後、報告書および決算書を提出していただきます

One Purpose <ワンパーパス> 同志社大学通信140号
2004年10月1日(4・6・10・12月年4回)発行 発行 同志社大学 企画部広報課 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 TEL 075-251-3120 FAX 075-251-3080 E-mail ji-koho@mail.doshisha.ac.jp

My PURPOSE

挑戦する人

関西学生野球リーグ初の完全試合達成！

～右ひじの故障を乗り越え、マウンドへ～

私の取り柄は、マウンド度胸です。4月3日の関西学生野球春季リーグ開幕戦でも、京都大学の各バッターに対して直球をどんどん投げていきました。信頼のおける捕手のリードと堅い守備に助けられ、気がつくと6回まで一人のランナーも許していませんでした。残りイニングは3回。完全試合を意識しなかったといえばうそになります。でも一人ひとりのバッターに集中することだけを考えて、打たせて取るピッチングでアウトを一つずつ重ねていきました。そして最後の打者は二塁ゴロ。打球を見ながら「イレギュラーバウンドするな」と念じました。ボールは二塁手から一塁手のミットへ。試合が終了してもしばらくは半信半疑でしたが、多くの取材を受けるなかで、だんだんと実感がわいてきました。

この完全試合は、私にとって初の完封試合であると同時に、2度目の完投試合でもありました。裏を返せば、これまでほとんど実績がありませんでした。

野球を始めたのは幼稚園の頃から。父と二人だけの練習を中学生になって野球チームに入るまで毎日続けました。父は野球経験がなく、親子二人三脚でともに勉強しながらの練習でした。

そうして、高校3年生の夏に三塁手として甲子園に出場し、3番手で登板する機会がありましたが、結果は散々。打ち込まれました。でも直球で空振り三振を取ることに魅力を感じて、大学入学後に強く希望して投手に転向しました。自主性を重んじる環境のなかで練習に打ち込み、自分でも手ごたえを感じていましたが、大学2年生の春に右ひじを手術。ボールを握れない状態が何カ月も続き、落ち込みました。そんな時に心の支えになってくれたのが、高校時代のチームメイトでした。大学野球で活躍する彼らの姿を見たり、励ましの電話を何度ももらい、こんなところで負けていられないとリハビリに励みました。筋力トレーニングやひじに負担をかけないように投球フォームの改善にも積極的に取り組みました。

そして昨春、初めてリーグ戦のマウンドに立つことができました。秋には2勝を挙げ、20季ぶりのリーグ優勝に貢献できました。さらに、オフシーズンに走り込みとウェートトレーニングを重ねて臨んだ今回の春季リーグ。結果は準優勝に終わりましたが、昨秋の主力選手がほとんど抜けたチーム状態で、よくがんばったと思います。私は6勝を挙げることができ、日米野球選手権大会や世界大学野球選手権大会の日本代表メンバーにも選ばれました。さまざまな国との対戦を通して痛感したのは、まだまだ上がいるということです。もっと成長する必要があると強く思いました。

春はあと一歩のところで敗れました。惜しかった、と言われるけれど、準優勝じゃやっぱり意味がない。完全試合達成と国際試合で得た自信を胸に、秋は、信頼する同志社のチームメイトとともにリーグ優勝、そして明治神宮野球大会まで勝ち進みたいです。

そして、卒業後も、プロ野球もしくは社会人野球で、マウンドに立ち続けることができるようにがんばります。

Profile

染田 賢作さん
【経済学部経済学科
4年次生】